



VOL.93
2026. September
TAKE FREE

MEG

Mixture
Entertainment
Guide

Cover Artist
Special Interview

坂東 玉三郎

歌舞伎を超えて挑み続ける表現者、
坂東玉三郎がフルオーケストラと共演！

伝統芸能の挑戦者たち

それぞれの伝統を自身の核としながら、
新たな世界を築こうと試みる3人。

豊竹若太夫／野村萬斎／玉川太福(玉川みね子)

Special Interview

観世喜正／内藤飛能／春風亭一花

小林亮太

小曽根真／かつしかトリオ

杉浦哲郎／中澤卓也×平松賢人

前橋汀子／仲道郁代／亀井聖矢／中川優芽花

藤田恭輔×柴 幸男

河井 朗(ルサンチカ)×仲村悠希(愛知眼芸術劇場シニアプロデューサー)

倉科カナ

(掲載順)

坂東 玉三郎

MEG Cover Artist
Special Interview

「音楽を聴いた後は、心を慰め、また明日から明るく素晴らしく生きていけると思えることが大事」。そう語る坂東玉三郎が、愛と人生と夢をテーマに歌う。歌舞伎を超えて挑み続けてきた表現者が、今、音楽に託す思いとは。

——今回はフルオーケストラとの共演で、シャンソンからジャズやミュージカルといったアメリカンポップスまで、ご自身で選曲された楽曲を歌われます。まず、今回このようなコンサートに出演しようと思われたきっかけと、これらの曲を選ばれた理由をお聞かせください。また、「愛・人生・夢」がテーマの楽曲ですが、込められた思いもお聞かせください。「愛・人生・夢」がテーマの楽曲となっていますが、それは歌の基本だと思います。反戦歌や、人生に対する悲しさ、そういった楽曲もあると思いますが、シャンソンやミュージカル、ジャズスタンダードの主たるテーマは人間愛、人生観、そして夢等です。ですから音楽を聴いた後は、心を慰め、そしてまた明日から明るく素晴らしく生きていけると思えることが大事なのではないかなと思います。

——玉三郎さんは歌舞伎だけでなく、舞踊や映画、オペラ演出、海外の芸術家とのコラボレーションなど、さまざまな表現に取り組んでこられました。今回、歌を中心としたステージに立たれることは、これまでのご自身の表現の延長線上で、どのような位置付けとして捉えていらっしゃいますか？

徐々にこのようなコンサートになってきました。最初は15年ほど前に小さなコンサートが始めたのがきっかけなのです。歌舞伎公演の為に発声の練習をしているうちに、やっぱり歌った方がいいのではないかとということから始まりまして、去年初めてすみだトリフォリーホールで、新日本フィルとのフルオーケストラでコンサートを開かせていただきました。同世代のお客様たち、あるいはオーケストラコンサートやミュージカルを聴き慣れていらっしゃる方々が喜んでくださりまして、『これからも機会があったら続けていきたいな』と思います。今回、こうして愛知県芸術劇場でオーケストラコンサートを開かせていただけますことを大変嬉しく思っております。

——これまでさまざまなジャンルの音楽や音楽家と出会い、舞台を創ってこれたとあります。玉三郎さんにとって、音楽は舞台表現の中でどのような存在なのでしょう。また、歌舞伎の「間」や「呼吸」と、音楽における「間」や「呼吸」に通じるものを感じることはありますか

歌舞伎と音楽との関係性ということですが、文字の通り、歌舞伎とは、歌・舞・技・術なのです。これまで、演劇やミュージカル等の素晴らしい音楽は、長い間皆さまの心に残っていると思います。名画、「禁じられた遊び」や「アラビアのロレンス」「第三の男」「旅情」など、挙げれば数限りない名曲があります。そしてリチャード・ロジャース&オスカー・ハマー

スタイン2世時代からの名曲の数々がミュージカルとして流れてきました。今回その時代に出来た名曲が入ることを嬉しく思っています。歌舞伎にはいつも御簾内の音楽、三味線と歌が流れていて、それが芝居を運んでいます。音楽と歌舞伎、音楽と演劇、音楽と映画の関係性は特に大切なものです。また人間は、畑仕事や子守歌など、生活の中から音楽を大切にしてきました。そういう意味で、人間と音楽は切っても切り離せないものだと思います。

——春風亭小朝さんとは、これまでも「越路吹雪物語」などで共演されてきました。今回も小朝さんが「音楽嘶」でクラシック音楽の世界へ観客を導く構成になっていますが、長く共演されてきたお二人だからこそ生まれる面白さや、今回のステージで期待していることを教えてください。

春風亭小朝さんとは、実は20歳ぐらいからの知り合いでして、母のところに少しだけ踊りのお稽古にいらっしゃったことがきっかけで、今回の催し物になりました。大変な勉強家でいらっしゃる小朝さんは、歌舞伎をよく観ていらっしゃりまして、『いつか共演をしよう』ということだったので、この「越路吹雪物語」で初共演させていただきました。そして過去には「牡丹燈籠」にも二人高座で上がらせていただきました。

——歌舞伎女方として長く第一線で活躍され、国内外のさまざまな芸術家との仕事を重ねてこられた玉三郎さんですが、これまでの経験を経た今だからこそ、改めて挑戦してみたい表現や、これから観客に届けていきたいものがあればお聞かせください。

私はこれまで長いこと舞台に立たせていただけてきました。しかし体力的な問題もありまして、こうしたコンサートやトークショー等を開催させて頂いていますが、大きな舞台作品には、わき役に演出したり、あるいはプロデュースをしたりして、皆様に夢のある劇場空間をお届けしたいというのが私の強い思いですし、私の将来の夢でもあるのです。

©Interview&Text / 福村明弘 ©Photo / 柏原孝史

10/31 SATURDAY 【チケット発売中】
「坂東玉三郎 プレミアムシンフォニックコンサート
with 春風亭小朝」

■会場 / 愛知県芸術劇場 コンサートホール ■開演 / 14:30
■料金(税込) / 全席指定 ¥12,000 SS¥10,000 SY¥8,000 ※特製プログラム付
■お問合せ / サンデーフォークプロモーション TEL.052-320-9100(12:00~18:00)



Tamagaburo
Special Interview

「音楽は人間と切り離せない」
玉三郎が届ける、愛と人生と夢。



伝統芸能の挑戦者たち

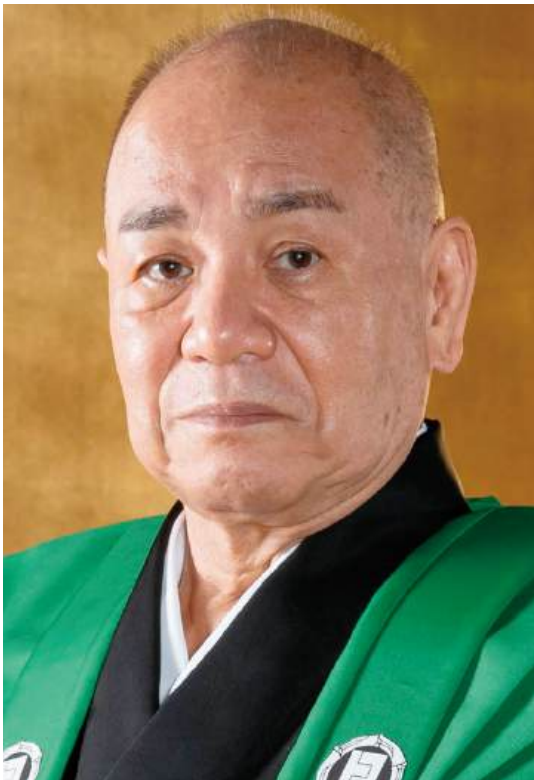
Challengers in Traditional Japanese Arts

受け継がれてきた伝統を守りながら、新たな表現へと挑み続ける伝統芸能の担い手たち。

文楽、狂言、浪曲。それぞれの道を歩む三人が思う伝統と革新、そして挑戦の先に見える景色にぜひ注目ください！

名古屋をどりNEOだからこそ挑める、伝統芸能の新境地。
豊竹若太夫が文楽の可能性を拓く。

豊竹若太夫 Wakatayu Toyotake SPECIAL INTERVIEW



豊竹若太夫が語る、
「仇討ち」と「福音」が出会うNEO舞踊劇

四世家元・西川千雅のもと、伝統を礎に新たな舞台表現に挑む日本舞踊西川流の「名古屋をどりNEO傾奇者」に、文楽の十一代豊竹若太夫が特別出演します。NEO舞踊劇「仇討ちの福音」は、若太夫がライフワークとして20年以上取り組む『GOSPEL in 文楽』を取り入れた新作。仇討ちと福音が交差する作品への思いを聞きました。

—— 西川流とは以前からご縁が深いそうですね

僕の師匠である四代竹本越路太夫の相三味線だった二代目澤喜左衛門さんが、先々代の西川鯉三郎さんとよく新作をやっていました。その後も西川流では義太夫を使った新作が作られていて、僕も「名古屋をどり」や国立劇場の公演に出演して、新作舞踊劇「仇ゆめ」や「望月の駒」などにも関わってきました。

—— 今回の出演は、どのように決まったのでしょうか。

以前から家元の西川千雅さんに「名古屋をどりに出演してください」と言われていたのですが、文楽の秋季巡業と重なって日程が合わなかったんです。今年はたまたま日程が空いていて、なおかつ「新作をしたい」とお話をいただきました。一から新作を作るに

は時間がかかるので、「それなら僕が企画した『GOSPEL in 文楽』をやったらどうですか」と提案したのがきっかけです。

—— 「GOSPEL in 文楽」とは、どのような作品でしょうか。
イエス・キリストの生涯を、聖誕から十字架、復活まで描いた作品で、ライフワークの一環として20年以上やっています。僕はクリスチャンなのですが、もともとは、クリスマスに賛美歌や聖歌に合わせて日本舞踊でイエス・キリストの誕生を踊る方がいて、「踊るんやったら僕が義太夫を語ろう」と、聖誕の場面を義太夫にしたのが始まりです。ゴスペルとは福音という意味。キリストが救い主であることをみんなに伝えるということですね。

—— 日本舞踊との組み合わせは、作品の原点でもあるんですね。
そうなんです。始まりが日本舞踊でしたから、合うんですね。僕は、イエス・キリストの物語を伝える形は、日本舞踊であっても、芝居であってもいいと思っています。僕にとっては、その物語が伝わるのがうれしい。今回、名古屋で4回も上演できることは非常に光栄です。

—— キリストの生涯を描く『GOSPEL in 文楽』に、仇討ちに生きる曾我兄弟の物語が加まりました。

台本を読んで、面白いなと思いました。曾我兄弟は父親の仇を討ちに行く。でも、仇討ちされる側にも「お前の親父が、わしの親父を殺したんや」という思いがあるんです。イエス・キリストは究極の愛ですね。自分が人類の身代わりになったということですから。一方で、仇討ちは復讐の連鎖です。憎しみは憎しみを呼ぶ、そのことが台本に書かれています。改めて台本を読んだ時に、「『GOSPEL in 文楽』と仇討ちは、テーマが合うな」と思いました。

—— 初めて義太夫節に触れる方には、この作品のどんなところを楽しんでほしいですか。

義太夫節の声、義太夫三味線の響きを味わっていただきたいですね。義太夫節には言葉もセリフもありますし、『GOSPEL in 文楽』はだいたい現代語でやっていますから、初めての方にも入りやすいんですよ。文楽入門にもなるし、文楽への誘いにもなります。ここで感動していただいて、「古典の文楽を一回見に行ってみようかな」と思ってもらえたらうれしいですね。

©Interview&Text / 岩本和子



10/24 SATURDAY・25 SUNDAY [チケット発売中]
「名古屋をどりNEO傾奇者」
■会場 両国劇場名古屋公演 ■開演 各11:00、17:00
■料金(税込) 全席指定 SV11,000 SV6,800 AV5,500
■お問合せ 名古屋をどり事務所 TEL:052-831-7106

◎豊竹若太夫 その他の出演公演
「文楽 地方巡業公演」
「三重公演」10/10 SATURDAY
■会場 三重県文化会館 中ホール
■お問合せ 三重県文化会館チケットセンター
TEL:059-233-1122

「愛知公演」10/15 THURSDAY
■会場 アマノ芸術創造センター名古屋
■お問合せ 名古屋市文化振興事業団チケットガイド
TEL:052-249-9387

狂言、音楽、琉球舞踊が交差する。
野村萬斎が挑む、未知なるシェイクスピア『真夏の夜の夢』。

野村萬斎 Mansai Nomura SPECIAL INTERVIEW



狂言×琉球舞踊×声楽×合唱で描く
野村萬斎版シェイクスピア『真夏の夜の夢』

メンデルスゾーンの名曲をオーケストラ・アンサンブル金沢が奏で、狂言や琉球舞踊、声楽、合唱がそれぞれの持ち味を生かしてシェイクスピアの世界を描く『MANSAI FANTASY BOX』。異なる芸術を一つの作品として成立させる演出や、シェイクスピアと狂言の親和性について、構成・演出・出演の野村萬斎に聞きました。

—— 本作を作るにあたり、どのようなことを意識されたのでしょうか。

オーケストラ、声楽、狂言、琉球舞踊がそれぞれ成立し、それぞれを生かすことに腐心しました。もともとメンデルスゾーンの「真夏の夜の夢」は、「結婚行進曲」も含めて非常に有名ですよ。その音楽をどう聴かせるかという部分は、マエストロにお任せしました。

—— 台詞はどのようにしているのでしょうか。

河合祥一郎さんという、僕がずっと組んでいる翻訳家の方の文章を使って、シェイクスピアの台詞を多少狂言的にアレンジしています。シェイクスピアは大変美しい文章でもあるけれど、非常に饒舌なんです。狂言化することでそこを切り詰めて、大事な台詞を残している。あとは音楽が語ってくれることもあれば、

差する。
エイクスピア『真夏の夜の夢』。

Mansai Nomura SPECIAL INTERVIEW

我々が逆に音楽の意味合いを動きでつけることもありです。
—— そこに琉球芸能を取り入れたのも印象的です。

『真夏の夜の夢』に出てくる職人たちの役は、ちょっとした抜け感みたいなものが大事だと思って、大らかな琉球芸能の方をお願いしました。あと、我々狂言の世界だと男ばかりになってしまうので、妖精には女性性が欲しかった。なので、琉球舞踊の女性たちをお願いして、しかも花笠を着けてもらいました。それが森に花が咲くような舞台の見立てになる。そこで、オーケストラ自体を森に見立てよう。真ん中に“森”があり、その前で人々が右往左往しつつ、妖精たちはその後方の高いところで人間を見下ろしているという構造になっています。

—— 2025年の初演から、今回はどのような進化を目指していらっしゃいますか？

三位一体を目指したところをさらに深めたいと思います。こういったコラボレーションは、回数を重ねることでお互いの間合いというものがわかってくるものなので、やればやるほど相互理解が深まっていくものと思います。

—— 音楽と芝居がそれぞれ独立して成立しているところも、この作品ならではのですね。

メンデルスゾーンの「真夏の夜の夢」といえば音楽主体で聴くことが多いと思いますが、芝居があるから音楽も生き生きし、音楽が生きているから芝居も生きます。これは、ほかでは見られないのではないかと思います。

—— このような総合芸術を作るうえで、狂言そのものが持つ力も大きいのでしょうか。

そうですね。狂言自体、総合性が非常に高い芸能です。歌も歌うし、台詞も言うし、語りもする。何も無い空間で舞い走り回ることできる。そういう我々の機動力も見逃せないものではないかと思います。

—— 公演を楽しみにしている皆様へメッセージをお願いします。

今までに見たこともない、「一粒で三つおいしい」みたいな作品でございまして、『真夏の夜の夢』をご覧いただいて、日本の芸能はすごいなと分かっていただけたらうれしいです。

©Interview&Text / 岩本和子



11/20 FRIDAY [チケット発売中]
ハフォーミングアーツ
Selection in 刈谷 vol.2
「MANSAI FANTASY BOX
野村萬斎 &
オーケストラ・アンサンブル金沢」
■全席 / 刈谷市総合文化センター 大ホール
■開演 19:00
■料金(税込) 全席指定 SV7,000 AV5,000
■お問合せ / 刈谷市総合文化センター
TEL:0566-21-7430(9:00~21:45)
◎助成 一般財団法人 地域創造

伝統を背負い、笑いの新境地へ挑戦！四者四様の個性が
ぶつかり合う、ソーゾーシーの熱き創作エンターテインメント！

玉川太福 Daifuku Tamagawa × Mineko Tamagawa SPECIAL INTERVIEW



浪曲の魅力はグルーヴ感。演者同士や観客の
ノリで出来栄が何重にも変わる。

若手落語家・浪曲師による創作話芸ユニット、ソーゾーシー。今年のツアーは、曲師(浪曲の三味線奏者)玉川みね子の芸歴50周年を記念した特別な趣向が話題です。10月の千秋楽・名古屋公演の前に、芸の相棒であり師弟に近い関係にもあるふたりから、浪曲の魅力を聞きました。

—— ソーゾーシーの中で、みね子師匠はどのような存在ですか？

太福：ひとこと言うとお「お嬢」ですね。

みね子：鯉八(瀧川)さんが勝手に言い出したんですよ。

太福：最初はみんな気を遣って距離がありました。芸歴も違うし、うちの師匠(二代目玉川福太郎)のおかみさんですから。でもツアーで鯉八兄さんが舞台上で「お嬢」と呼び始めてくれた。おかげで、みんなほぐれてきました。

—— みね子師匠は、福太郎師匠とご結婚後に入門されたそうですね。

みね子：旦那(福太郎)に言われて浪曲三味線教室に参加したのが始まりです。それまで三味線は見たこともなかったですよ。でも続けたから、今も舞台を務めさせてもらっています。太福：浪曲の三味線は、弾き方がその都度違うんですよ。細かい一手一手は違うんだけど、同じ手を弾いてるっていう。だから、長唄

などの経験があって譜面で弾いた人は、混乱するみたいですね。

—— おふたりの相性はいかがですか。

太福：ここで「悪い」と言えますか？(笑)

みね子：真面目だからこの人、本当に。人として尊敬できますね。

私がそう思ってるっていうことは、相性がいいんじゃないでしょうか。太福：「ひとつの世界を俺が引っ張っていくんだ」というところは、うちの師匠と似ているかもしれません。おかみさんは「ついていながら支えるわよ」というタイプで、弾き過ぎず一番いい距離感で支えてくれる。だから、新作のぶっつけネタ下ろしでも何の恐怖もなく本番に挑めるんです。

—— ジャズですね。

太福：それぞれ自由な裁量あり、みたいな。そういうところが私にはすごく相性がよかったですね。浪曲の魅力は、ひとこと言えばグルーヴ感。演者同士やお客さまのノリで出来栄が何重にも変わるので、飽きることがありません。

みね子：お客さんも舞台に参加しています、絶対。

—— 太福さんの新作は日常的な題材が印象的ですが、どのように作られているのでしょうか。

太福：些細な日常におかしみを見つけたいとは常に思っています。ただ、最近は「地べたの二人」シリーズのような日常ものだけでなく、未知の扉を開きたいとも考えています。浪曲にはまだ無限の引き出しがあるはずなんです。

みね子：太ちゃんはずっとコント作家をめざしていたから、話を作るのが本当に上手で面白いですよ。

—— 名古屋公演がツアーの千秋楽ですね。

太福：おかみさんの歩みとリンクしたような、喜んでいただける話をできたらと思っています。最後はおかみさんに歌ってもらおうと考えているので、当日までに趣向を練ります。

みね子：最後ですからね。皆さまに「楽しんでいただけたらか」と笑顔で言えるような舞台にしたいです。

—— 12月の「大名古屋らくご祭」への出演も控えています。

太福：東西の看板師匠方が勢揃いする超豪華な興行に、若手の枠で入れていただけるのはこの上ない光栄です。ワクワクとドキドキが入り混じっていますが、なんとか爪痕を残したいですね。志らく師匠がもった炎上するように油を注げばと思っています(笑)。

©Interview&Text / 稲葉敦子



10/25 SUNDAY [チケット発売中]
「ソーゾーシーTOUR 2026」
名古屋公演
■会場 中野ホール ■開演 13:00
■料金(税込) 全席指定 一般¥4,000 U25¥2,000
■お問合せ / 東海テレビ放送 事業部
TEL:052-954-1107(平日10:00~17:00)



©UKIBE NAKO

ココが見どころ!!

伝統芸能を、もっと自由に、もっと面白く！「名古屋をどりNEO」は、古典の魅力を大切にしながら、新しい表現に挑む舞台です。今年は文楽の豊竹若太夫による「GOSPEL in 文楽」と西川流の舞踊が出会う「仇討ちの福音」をはじめ、高橋大輔、名古屋山三郎ら多彩な出演者が登場。ジャンルの垣根を越えて、これまでにない化学反応を生み出します。名古屋発、伝統芸能の“今”をぜひ劇場で！



ココが見どころ!!

シェイクスピアの名作『真夏の夜の夢』を、野村萬斎がひと味違った音楽劇に！オーケストラ・アンサンブル金沢の華やかな演奏を軸に、狂言、琉球舞踊、オペラの歌声で、さまざまな表現が大集合。夢と現実が入り混じる物語を、萬斎ならではの遊び心でどう見せてくれるのかも楽しみです。ジャンルの垣根を軽やかに飛び越えて生まれる、予測不能な『真夏の夜の夢』を、ぜひ劇場で味わってください！



ココが見どころ!!

落語、浪曲という伝統芸能をベースに、春風亭昇太、瀧川鯉八、立川吉笑、玉川太福の4人が、それぞれの個性とアイデアで新しい「話芸」を繰り広げるソーゾーシー。古典を楽しむ客席とはひと味違い、「そんなことやっちゃあ？」という自由な発想と、4人の化学反応が魅力です。笑って、驚いて、ときには「なるほど」と唸る。何が飛び出すか分からないライブ感も、この公演ならではの、話芸の面白さを気軽に楽しみながら、まだ見たことのない世界へ一緒に挑戦してみてください！

観世喜正

Yoshimasa Kanze
SPECIAL INTERVIEW

「楊貴妃」は、能の幽玄の真骨頂。
ヒロインの愛の物語に浸ってほしい。

10月の豊田市能楽堂「もみじ能」では、名作「楊貴妃」を上演。これまでシテを何度も演じてきた観世喜正に、作品の背景や能の幽玄の楽しみ方について、教えてもらいました。

——白楽天の漢詩「長恨歌」をベースにした能「楊貴妃」。作者の金春禪竹は世阿弥の娘婿だそうですね。世阿弥の幽玄な世界観を直に受け継ぎ、深みのある作品を多く残した人です。世阿弥は1443年に亡くなっていますが、禪竹も同じ頃、1400年代前半に活躍したと思われる。足利義満や森持の安定期が終わわり、世の中が荒れ始める時代でしたが、観客や支持者には幽玄を味わう教養や感性、時間の余裕がありました。これより時代が下ると、ゆったりの幽玄の世界よりも、現在進行形で悪霊退治をするような活劇ものが好まれるようになります。例えば1500年代の観世小次郎信光の時代には、同じく楊貴妃をテーマにしているも、鍾馗が悪霊を退治するようなものに進化しました。そう考えると、過去を回想する幽玄美が最も喜ばれた時代の象徴的な作品だと考えます。

——楊貴妃と玄宗皇帝の悲恋を描く上で、幽玄の手法はどう生きているのでしょうか？

楊貴妃の一代記であるなら、現在進行形で物語が進め

ばわかりやすいんです。でも能は、時系列で物語を追わず過去を回想する形で描きます。時空を自在に行き来し、登場人物の心の葛藤ややりしりの思い出を取り切って舞台上に再現するわけです。世阿弥が開発した「夢幻能」という手法で、いちいち説明しなくても、登場人物の心の動きをより重層的に描くことができます。だからこそ演劇としての価値があったと思うんですね。登場人物の心の内側、人間そのものを想像させたから、能が演劇として長く生き残ってきたのではないかと思います。禪竹はこれを継承し、さらに「野宮」や「定家」といった作品で、女性の恋物語や心の葛藤を描く強みを発揮しました。「楊貴妃」では、霊になった楊貴妃が、玄宗皇帝との甘く平和な時代を思い出しながら舞い歌います。皇帝の使者が「あの世」まで会いに来た証拠を求めると、天冠から鳳凰の部分を外し、かんざしとして差し出します。しかし、使者から「二人しか知らない愛の言葉覚えてほしい」と頼まれ、楊貴妃は深い愛の契りのメッセージを託すのです。

実は、彼女は人間界に仮に生まれ出た仙女だったので、もう二度と戻れない。この切ない終わりが非常に秀逸でドラマチックですね。

——10月の「もみじ能」が楽しみです。豊田市能楽堂では何年かに一度お役を頂戴しています。今回はしっとりとした「楊貴妃」ですので、年齢を重ねた今の自分ならではの演じ方で、しっかり組み込みたいと思います。この曲は幽玄の真骨頂で、非常にスローでゆったり進みます。とすると眠気に誘われかねない(笑)。でも、それが能の醍醐味のひとつでもありますから、あまり構えずに世界観に浸っていただきたいですね。ひとりのヒロインの愛の物語として捉えていただければ、とつきやすいと思います。事前準備として、あらずじや長恨歌の詩を少し調べておくとか「あ、このセリフだ」と聞き取れるはずです。映画「国宝」のヒットで古典芸能に注目が集まっていますが、ちょっと不思議な能という芸能も、ぜひ体験してほしいです。狂言は夫婦をテーマにした「箕被(みかづき)」ですし、身近なテーマから古典の世界を楽しんでください。

©Interview&Text / 稲葉敦子

10/4 SUNDAY [チケット発売中]
「豊田市能楽堂 もみじ能」
■会場 / 豊田市能楽堂
■開演 / 14:00
■料金(税込) / 正面席¥6,000
席中正面席¥4,000(25歳以下¥2,000)
■お問合せ / 豊田市コンサートホール能楽堂事務局
TEL.0565-35-8200



注目の伝統芸能 Key Person SPECIAL INTERVIEW

内藤飛能

Tobiyoshi Naito
SPECIAL INTERVIEW

「何もしない方がいい」
内藤飛能が挑む「井筒」の静かな美しさを。

5歳から能を始め、9年間の内弟子修業を経て独立した宝生流シテ方・内藤飛能。今だからこそ大切に「自分なりの解釈」と、「井筒」の魅力、故郷・名古屋への思いを聞きました。

——名古屋で能楽師の家系に生まれ、5歳から能を始めたとのことですが、子どもの頃は「能楽師になる」ということをどのくらい意識していたのでしょうか？ また、能楽師の道に進む決意が生まれたのはいつの頃でしょうか？ 幼少の頃は自分は能楽師だという意識はなく、余り深く考えていませんでした。周りからの過度な期待やプレッシャーも無かった事が良かったのだと思います。高校生の時に、本格的に能楽師になる決心をして、能を専門に学べる大学へ進学しました。

——東京藝術大学を卒業後、宝生宗家の内弟子を9年間務められています。当時の生活や、今振り返って特に印象に残っている出来事を教えてください。内弟子時代は、24時間1つ屋根の下、入れ替わりはあるものの常に5〜8人で共同生活です。でとにかく気を使いました。一方、面・装束・作り物等の維持管理、次の舞台の下準備も任せられます。良いも悪いも舞台を身近で観る機会も多いですので勉強するには最高の環境でした。

——今回演じられる「井筒」は、「伊勢物語」をもとにした非常に詩情豊かな曲で、豊臣秀吉・秀次もこの曲を舞ったという歴史的な背景もあります。内藤さんは「井筒」のどこに最も心を惹かれていますか？ また、他の曲と比べるとどこに難しさや面白さを感じていらっしゃいますか？

「伊勢物語」という文学的要素と可憐な乙女の恋心に魅力を感じます。戦に明け暮れた秀吉・秀次の2人だからこそ一時の清涼を求めたり、自分たちとは違う生き方、考え方をしたものの憧れを抱いたのではないのでしょうか。現代人にも当てはまる人はいると思います。

——内藤さんはこれまで「石橋」「道成寺」「乱」といった大曲も披露されています。そうした大きな曲を経験してきた今だからこそ、「井筒」に向き合うことで見えてきたものはありませんか？ また、能を長く続けてきた今、ご自身の中で「能の見る・感じる方」が変わったと思うことはありますか？

大曲は皆、身体的な強さ、技、間合いが必要ですがこの「井筒」は何もしない方がいいと感じます。何かやろうと思うと演技の邪魔になる。そんな気がします。20代、30代の時は教えられた事、伝えられてきた事をそのまま舞台上に活かす事を基本にしてきましたが、最近は自分なりの解釈も大事にしています。なぜこのように語るのか、この型を活かした方がいい良くないような工夫ですね。

——宝生会のプロフィールを拝見すると、内藤さんご自身について「細々と、地道に」とコメントされ、趣味は散歩、好物はカレーとあります(笑)。長い修業を経て能楽師として活動されている内藤さんですが、舞台を離れたときはどんな時間を過ごされているのでしょうか。



小学生の息子と娘がいるのですが、今は専ら子どもと遊んでいます。いや遊んで貰っています。——現在は東京・埼玉を拠点とされて、名古屋にも稽古場をお持ちです。内藤さんにとって、今、名古屋はどんな場所でしょうか？ 名古屋が拠点で、東京へは武者修行に出ている感じ(笑)。

©Interview&Text / 福村明弘

10/18 SUNDAY [チケット発売中]
名古屋能楽堂 十月定例公演
「豊臣能楽〜豊臣家の能と狂言〜」
■会場 / 名古屋能楽堂
■開演 / 14:00
■料金(税込) / 前定席¥4,200
自由席一律¥3,200 学生(25歳以下)¥2,000
■お問合せ / 名古屋能楽堂 TEL.052-231-0088

春風亭一花

Ichihana Shunputei
SPECIAL INTERVIEW

落語協会に吹く、話題の新風も堂々登場。

東西の人気豪家たちが名古屋に集結する、年末恒例の落語フェスが今年も開催。今秋、女性初の単独真打昇進を果たす春風亭一花が昨年に続いて登場することも決まっており、各方面から広く話題を集めています。

——9月21〜30日の鈴本演楽場(上野)を皮切りに12月14〜18日の国立演楽場まで、いよいよ「真打昇進披露興行」が始まりますね。にわかには新しいことに挑戦するのは無理があるのですが、いまでもやってきたことを土台にして前に進み、皆さんに楽しんでいただけたらと思っています。寄席が大好きなので、何より45分くらいで上げることが嬉しい。単独ということではないんなんですよね。一生に一度の経験なのでしっかりと動機づけたいし声をからさないように頑張ります。

——2012年の兄弟子の一之輔さんに続いて、一門から52人の披露真打(※入門順や年功序列の順番を飛び越えて昇進することになった師匠である春風亭一朝さんも鼻が高いでしょうね。

うちの師匠は口数が少なく、ふだん怒ったりもしないので、いざというときの一言が重いですね。弟子によってかけてくださる言葉もタイミングも違うんです。うちの一門は基本的に放し飼いの(笑)ですが、ちゃんと“柵”はあります。それを越えるように自主的に守りつつ…本当にダメなときは兄(あに)さんたちが軌道修正してください。大所帯なので全員が一堂に会する機会は少なく、毎年(師匠・一朝の誕生日である)12月10日の「年忘れ一朝一門会」とその後の忘年会で集まるのが定番。今年も夜の部に一門みんなで真打昇進披露口上もあるはずです。

——さて、前回(2025年)の「大名古屋らくご祭」は初日に出られましたね。はい。とにかく大きな会場にお客さんがびっしりで、それまで自分がやっていた勉強会や居酒屋とかの小さな会とは距離感がまったく違い、加えて(春風亭)小朝師匠や(林家)たい平師匠と同じ日で凄く緊張しました。楽屋も大きな楽屋に私ひとりで落ち着かなかったです(笑)。

——今年も鈴々たるメンバーですよ。そうですね。(三遊亭)小遊三師匠、(三遊亭)好楽師匠、(柳亭)市馬師匠は言うに及ばず、いちばん芸屋に近いのが(立川)生志師匠ですから。かなりの格差があって大丈夫かしらと恐縮します。前回と異なり私も「真打」ですから更に気持ち引き締まります…。

——落語シーンにも近年女性が増えてきましたね。長い伝統がありますし、わりと固そうなイメージを持たれている方も多いと思いますが、意外に変化をちゃんと受け入れてくださる土壌がある場所です。大師所の師匠方も一生懸命やっていると認めてくださいます。落語界に悪い人はいません…。いてもいいじゃない小悪党くらいで(笑)。とはいえ、まだまだ寄席の楽屋には狭くて、着替えるのも小学校のプールの授業のような場所もあります。またこれから、女性も増えて行くに従って良い方向に変化していくのではないのでしょうか。

——ところで、大学では演劇サークルに所属されていた



第七十九回 名古屋をどり

NAGOYA ODORI NEO

2026年

10月24(土) 25(日)

岡谷鋼機名古屋公会堂

NEO 舞踊劇 仇討ちの福音

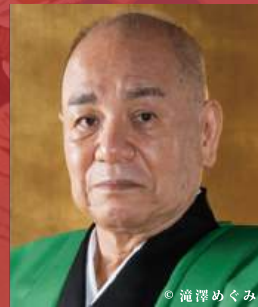
ADAUCHI NO FUKUIN



西川 千雅



高橋 大輔



文楽 豊竹 若太夫



本田 剛文
(BOYS AND MEN)



名古屋 山三郎
(ナゴヤ座)



手嶋 政夫
(RE-act)

第七十九回 名古屋をどり

NAGOYA ODORI NEO

岡谷鋼機名古屋公会堂大ホール

10月24日(土) [①11時開演] [②17時開演]
2026年 25日(日) [③11時開演] [④17時開演]

全四公演

チケット
(全指定座)
・税込価格・

チケット取り扱い
お問い合わせ

ご注文は
こちらから

SS席 (1階) 11,000円
S席 (1・2階) 8,800円
A席 (3階) 5,500円

チケット好評発売中!
西川流 note

QRコード

詳しい情報は
こちらから!

Nishikawa Company
Central Japanese Office

日本舞踊 西川流
☎ 052-831-7106

後援: 国土交通省中部運輸局・愛知県・愛知県教育委員会・名古屋市中区・名古屋市教育委員会・名古屋商工会議所・CNCテレビ・岐阜テレビ放送・TOKAI RADIO・東海旅客鉄道株式会社・名古屋鉄道株式会社・トヨタ自動車株式会社
共催: 名古屋市・中日新聞社 主催: 名古屋をどりの会

中京テレビクリエイション

TEL.052-588-4477 (中京テレビクリエイション) 〓お問合せ 〓 https://cte.jp 〓チケット購入OK 〓 ※出演者・プログラム等変更になる可能性があります。予めご了承ください。

11/16 SATURDAY
11/17 SUNDAY
ミュージカル『ジャック・ザ・リッパー』

10/7(水)〜チケット発売

○出演／木村達成・平間丈一(ダニエル/Wキャスト)、加藤和樹・松下俊也(アンダーソン/Wキャスト)、加藤和樹・堂珍嘉邦(ジャック/Wキャスト)、熊谷彩春(グロリア)、花乃まりあ(ボリー)、田代万里生(モンロー)

伝説の未解決事件、待望の愛知公演決定!

その動機は、狂気か、愛か。19世紀末にイギリス・ロンドンで発生した世界的に有名な未解決連続殺人事件で犯人として恐れられた殺人鬼、“切り裂きジャック”を題材にしたミュージカル『ジャック・ザ・リッパー』

予測不能なジェットコースターのようなストーリーと、一度聴いたら忘れられない美しくも激情的な音楽。緻密な解釈と繊細な表現で描かれる人間ドラマの深淵。この冬「切り裂きジャック」の真実が、あなたの心を震わせる。

■会場／一宮市民会館 大ホール
■開演／1月16日(土)12:30、17:30 1月17日(日)12:30
■料金(税込)／SY15,000 AY11,000 U22Y7,000
■チケット取扱い／下記①②③④⑤⑥⑦
■Pコード／544-517 ■Lコード／43471
※未就学児入場不可27 11/14 THURSDAY
第44回名古屋クラシックフェスティバル
プラハ交響楽団
トマーシュ・ネトビツ 指揮 金子三勇士 ピアノ

チケット発売中

○曲目／ベートーヴェン「エグモント」序曲、ピアノ協奏曲 第5番 変奏長調 op.73(皇帝)、ドヴォルザーク「交響曲 第9番 ホ短調 op.95「新世界より」

誰もが知る名曲で、楽しく華やかな年明けを!
チェコを代表するオーケストラの、
深く温かい伝統の響き

チェコのオーケストラによるチェコの作曲家であるドヴォルザーク「新世界より」はまさに“本家”! チェコ特有の音を守り続けるその独特の響きを存分にお楽しみください。ソリストは、温かみのある人柄と、情熱的かつ繊細な演奏で多くのファンを獲得している金子三勇士。

■会場／愛知県芸術劇場コンサートホール
■開演／18:45
■料金(税込)／SY18,000 AY14,000
BY9,000 CY7,660Q(発売)
DY5,960Q(発売) U26Y2,000■チケット取扱い／下記①②③④⑤
■Pコード／315-134
※未就学児入場不可9/27 SUNDAY
ザ・ブラザーズ・フォア
-GREENFIELDS FOREVER 2026-

チケット発売中

○出演／ボブ・フリック(B・Vo)、マーク・ヒヤソン(G・B)・Vo)、マイク・マッコイ(G・Vo)、カール・オルセン(G・Vo) ○曲目／「グリーンフィールズ」500マイル「道かあるアラモ」17つの水仙「花はどこへ行った」ほか予定

青春の思い出によりそうハーモニー

モダンフォークの真髄 奇跡の再来日!

ブラザーズ・フォアは偉大なアメリカン・フォークの真のバイオニアです。今も世界をツアーし、来年結成60周年を迎え、往年の世代から、新たな世代までを鼓舞し続けています。客席に調和と心をつなげるパフォーマンス、愛、喪失、旅、故郷、希望という普遍的な体験を喚起する歌の数々。あらゆる年齢、すべての観客にぴったりの高揚感あふれるライブです。

■会場／ウイングあいち ■開演／14:30
■料金(税込)／全席指定 ¥8,800
■チケット取扱い／下記①②③④⑤
■Pコード／328-814 ■Lコード／41617
※未就学児入場不可10/6 TUESDAY
英国国王陛下の近衛軍楽隊
エリザベス女王生誕100周年記念

チケット発売中

○出演／「ジャスティン・ゲラティ」佐(音楽監督・指揮)、コールドストリーム・ガーズ・バンド(演奏)、スコツガーズ・バグパイパー(特別共演)、柴田昌宣(指揮/2等陸佐)、鶴真衣(ソプラノ/3等陸曹) ○曲目／威風堂々、「007」ナンバ、キャッツより「メモリー」、グリーンスリーブズ ほか

威風堂々、アメイジング・グレイスから

スコットランド民謡まで、珠玉の名旋律集予定!

熊皮の帽子と真紅の礼装―国賓の送迎、衛兵交替式、国会の開会、叙勲などのほか、国内外での演奏も積極的に行うコールドストリーム・ガーズ・バンド。

一条乱れぬマーチングから情緒溢れるスコットランド民謡まで、珠玉の名曲をお贈りします。今回は特別に陸上自衛隊中央音楽隊の柴田昌宣中佐、鶴真衣3等陸曹が友情出演されます。

■会場／愛知県芸術劇場コンサートホール ■開演／18:45
■料金(税込)／SY9,500 AY7,500
BY4,500
■チケット取扱い／下記①②③④⑤⑥
■Pコード／330-798 ■Lコード／41586
※未就学児入場不可12/22 TUESDAY
チャイコフスキー・バレエ劇場
「くるみ割り人形」

チケット発売中

○出演／モスクワクラシック・バレエ劇場 ○演目／「くるみ割り人形」全2幕 ○音楽／P.チャイコフスキー ○台本／M.プティパ(E.T.A.ホフマンの童話に基づく) ○振付／レ・イワフ

130年以上も

受け継がれる

古典バレエの名作

美しい雪の精たちの舞、

世界各国の人形の踊り、有名

な「花のワルツ」など多くの

見どころがあり、心温まる美し

いストーリー。チャイコフス

キーの名曲にのせて、子ども

から大人まで幅広い世代が

楽しめる、クリスマスのファン

タジーバレエの傑作。

■会場／愛知県芸術劇場大ホール ■開演／18:30
■料金(税込)／SY11,000 AY8,000 BY6,000
■チケット取扱い／下記①②③④⑤⑥⑦ ■Pコード／542-451
■Lコード／35279 ※3歳以下入場不可 ※演奏は特別録音音源を使用します27 11/11 MONDAY HOLIDAY
ウィンナー・ワルツ2027
ウィーン宮殿祝賀コンサート

チケット発売中

○出演／シンドラー・ヴァルクライ(指揮・ヴァイオリン)、ウィナー・ワルツ祝祭オーケストラ(管弦楽)、ダンサー4名、エルヴィラ・ハラシュティ(ソプラノ) ○曲目／春の雨、皇帝円舞曲、雷鳴と鐘、美しく青きドナウ、リッツ・トラ・ツェルカ、ラプソディ・行進曲 ほか

歌とバレエとオーケストラ!

華やかなワルツとポルカで迎える、新年の幕開け!

新春コンサートとして、日本でもお馴染みとなった「ウィナー・ワルツ」。

ヴァイオリンの名手シンドラー・ヴァルクライが指揮、ソロ・ヴァイオリンを務め、華やかなコンサートをお届け! ヨハン・シュトラウス2世をはじめ、シュトラウス一家の胸躍る管弦楽を中心に、ソプラノ/歌手が歌うオペレッタの名曲、4名のダンサーが優雅に舞うワルツやポルカなど、多様な演出で観客を魅了します。

■会場／愛知県芸術劇場コンサートホール
■開演／13:00 ■料金(税込)／全席指定 ¥6,800
■チケット取扱い／下記①②③④⑤⑥
■Pコード／331-450 ■Lコード／32660
※未就学児入場不可■会場／愛知県芸術劇場コンサートホール
■開演／13:00 ■料金(税込)／全席指定 ¥6,800
■チケット取扱い／下記①②③④⑤⑥
■Pコード／331-450 ■Lコード／32660
※未就学児入場不可〓チケット取扱い 〓
①Chuchika ☎052-308-8282(平日11:00〜17:00) https://lan.pla.jp/chvc-event ②チケットびあ https://t.pla.jp ③ローソンチケット https://l-tike.com ④イープラス https://eplus.jp ⑤英文プレイガイド ☎052-972-0430
⑥名鉄サテライトセンター ☎050-3776-6184(平日12:00〜15:00) https://www.koransha.com ⑦セブンチケット ☎0570-00-5310 https://c7net.ticket.jp ⑧アイチケット ☎0570-00-5310 https://c7net.ticket.jp ⑨一宮市民会館 ☎0586-71-2021(9:00〜19:00 第1・第3火曜日休)
⑩一宮市尾西市民会館 ☎0586-62-8222(9:00〜16:30 第1・第3火曜日休) ⑪一宮市木曽川文化会館 ☎0586-86-7581(9:00〜19:00 第2・第4火曜日休) ⑫アイプラザ ☎0586-77-6612(9:00〜16:30 第3・第4火曜日休) ⑬土岐市文化プラザ ☎0572-55-5711(9:00〜20:30)

メ〜テレ

TEL.052-331-9966 (平日10:00〜18:00) 〓お問合せ 〓 https://www.nagoyatv.com/event/ 〓チケット購入OK 〓

10/17 SATURDAY
10/18 SUNDAY
リア王 -KING LEAR-

チケット発売中

○作／ウィリアム・シェイクスピア ○演出／森新太郎 ○出演／内野聖陽、前田公輝、井上陽海、清水くるみ、川上友里、内田慈、大山真志、永島敬三、和田正人、杉本哲太、山路和弘 ほか

シェイクスピア四大悲劇の一つ、「リア王」。“老い”“世代交替”“相続”等、超高齢化社会の現代日本が抱える切実な諸問題を映し出す傑作ゆえに、近年とみに上演されることが多く、名優が相次いでリア王役を演じる注目の作品です。各演出家の森新太郎と、多彩な役どころを演じる力量には定評がある内野聖陽がタッグを組み、ベテラン勢からフレッシュな顔ぶれまで豪華かつ個性豊かな共演陣が揃った本公演、大変好評につき注釈付き指定席の発売が決定!! この機会をお見逃しなく!!

〓注釈付き指定席 9/19(土)10:00〜①②⑥にて発売です!

■会場／刈谷市総合文化センター 大ホール
■開演／10月17日(土)12:00、17:30 10月18日(日)12:00
■料金(税込)／全席指定 ¥12,000 車いす席 ¥12,000 U-25チケット ¥6,000
■チケット取扱い／下記①②③④⑤⑥ ■Pコード／542-920
■Lコード／43082 ※未就学児入場不可 ※車いす席、U-25チケットは①(車いす席は電話のみ)にて取扱い
※U-25チケットは観劇時25歳以下対象(当日指定席券引換・座席数限定・要本人確認書類)10/31 SATURDAY
ブランク

チケット発売中

○作・演出／倉持裕 ○出演／向井理、西田尚美、入野自由、森優作、中井千聖、池津祥子

作・演出 倉持裕×主演 向井理が再タッグ!

書き下ろし新作公演

2023年上演の「リムジン」でタッグを組んだ向井理と、倉持裕が再び組んで贈る書き下ろし新作公演。西田尚美、入野自由、森優作、中井千聖、池津祥子という個性的で魅力的なキャストを共演に迎え、ある弁護士事務所を舞台に繰り広げられる人間のエゴと、救済のドラマを、丁寧に描いた会話劇です。どうぞお楽しみに!

■会場／名古屋文理大学文化フォーラム(福沢市民会館)大ホール
■開演／13:00、17:30
■料金(税込)／全席指定 ¥9,000 車いす席 ¥9,000 U-25チケット ¥4,500
■チケット取扱い／下記①②③④⑤⑥ ■Pコード／542-856
■Lコード／42546 ※未就学児入場不可
※車いす席、U-25チケットは①(車いす席は電話のみ)にて取扱い
※U-25チケットは観劇時25歳以下対象(当日指定席券引換・座席数限定・要本人確認書類)27 11/30 SATURDAY
27 11/31 SUNDAY
ジャズ大名

10/24(土)〜チケット発売

○原作／筒井康隆(「エロチック街道」(新潮文庫)所収) ○演出／福原充則

○出演／千葉雄大、藤井隆、入野自由、大堀こういち ほか

巨匠・筒井康隆の傑作小説を、演出家・福原充則が舞台化した奇想天外なコメディ。2023年の初演時、愛知公演は残念ながら公演中止となりましたが、この度待望の再演が決定!!初演で息の合った掛け合いで楽しませてくれた千葉雄大と藤井隆、大堀こういちが続投、加えて入野自由、植本純実、野口なおるが新キャストとして登場。江戸末期、アメリカから漂着した黒人奴隷と出会った音楽好きの藩主が、彼らの奏でる音楽の虜となり、城中でジャム・セッションを繰り広げるコメディが、現代の日本を明るく彩ります!

〓只今、各プレイガイドにて先行受付中!!

■会場／刈谷市総合文化センター 大ホール
■開演／11月30日(土)12:00、17:00 11月31日(日)12:00
■料金(税込)／全席指定 SY11,000 AY8,000
車いす席 ¥11,000 U-25チケット ¥5,500
■チケット取扱い／下記①②③④⑤⑥ ■Pコード／544-563 ■Lコード／43482
※未就学児入場不可 ※車いす席、U-25チケットは①(車いす席は電話のみ)にて一般発売/取扱い
※U-25チケットは観劇時25歳以下対象(当日指定席券引換・座席数限定・要本人確認書類)〓チケット取扱い 〓
①メーチャ ☎052-308-5630(平日10:00〜17:00) https://www.nagoyatv.com/event/ ②チケットびあ https://t.pla.jp ③ローソンチケット https://l-tike.com ④イープラス https://eplus.jp ⑤カンフェティ https://www.confetti-web.com/ ⑥刈谷市総合文化センター窓口/オンラインチケットサービス https://www.kariya-bunka.jp/ticket ⑦名古屋文理大学文化フォーラム(福沢市民会館)窓口 ☎0587-24-5111(9:00〜21:00) ⑧楽プレチケ92・窓口 ☎052-953-0777(10:00〜19:00)

SPECIAL INTERVIEW 01 小林亮太 Ryota Kobayashi

物語の鍵を握る、エルマの幼なじみビクトル役で出演

20世紀スペイン最大の詩人で劇作家のガルシア・ロルカが1934年に書いた戯曲を起点に、現代社会で自らの居場所や価値を見出そうと生きる女や男たちを鮮烈に描く『Yerma イェルマ』。11月に東海市芸術劇場で上演。

—— 以前から稲葉実恵さん(稲葉・演出)の手掛けられた芝居のファンで、出演を希望されていたか?

はい。本読みの段階から稲葉さんが僕らと目線同じに立って、皆さんと意見を変えながら登場人物の心の動きや背景を丁寧に積み重ねて作っていくやり方がとても創造的で、難しいところもありますが演じていて充実感があります。まだ立ち稽古が始まったばかりですが、重苦しさだけでなくどこか華やかさもある作品に仕上がっています。

—— 原作は、母親に在ることを望まないエルマの孤独と苦悩が、スペインの閉塞的な寒村に根付く価値観と結びついて引き起こす重層的な悲劇ですが、「夫婦」や「家族」「不妊」に対する重圧のようなものは100年を経た現代の日本でも不要ですか。

「生産性のない人たちに存在価値がないのか」という問いかけが本作のテーマですが、それを女性の立場からだけでなく、男性の視点絡めて描き出すことに意味があると思います。僕自身も今、社会における男らしさについて改めて考えさせられたということもあり、舞台では悩めるエルマに対して幼なじみのビクトルとして、またたびり

11/7 SATURDAY
11/8 SUNDAY
Yerma イェルマ

チケット発売中

○作／オノマリコ ○構成・演出／稲葉実恵 ○出演／咲妃みゆ、渡邊圭祐、小林亮太、植之津琳太郎、大場みなみ、青山祥子、前東美菜子、渡辺いつい

抑圧された女性の苦悩と孤独を鮮烈に描き出した不朽の傑作『イェルマ』を起点に、現代社会で自らの居場所や価値を見出そうと生きる女と男たちの物語として新たな戯曲を書き下ろした作品。仕事をしながら妊娠にも成功した友人たち。一方、仕事を諦め、子供もできず、夫との関係も壊れそうなるイェルマは自分の存在価値を疑い、その不安・混乱は夫にも伝染していく――

ポストトーク開催決定!!

■11月7日(土)13:00公演終了後

〓登壇者／咲妃みゆ、渡邊圭祐、小林亮太、渡辺いつい

■会場／東海市芸術劇場 大ホール ■開演／各日13:00 ■料金(税込)／全席指定 ¥10,000 車いす席 ¥10,000 U-25チケット ¥5,000
■チケット取扱い／下記①②③④⑤⑥ ■Pコード／542-115 ■Lコード／42029
※未就学児入場不可 ※車いす席、U-25チケットは①(車いす席は電話のみ)にて取扱い
※U-25チケットは観劇時25歳以下対象(当日指定席券引換・座席数限定・要本人確認書類)11/20 FRIDAY
〜22 SUNDAY
タクフェス第14弾『北の島から』

チケット発売中

○作・演出／宅間孝行 ○出演／関口メンディー、矢島舞美、石垣佑磨、浜谷健司、石田亜佑美、鈴木杏樹、モト冬樹、宅間孝行

宅間孝行作・演出、

待望の最新作!

関口メンディーが

舞台初主演に挑む!!

タクフェス第14弾は宅間孝行の5年ぶり待望の新作日本最北の島・礼文島を舞台に、おバかな面々が巻き起こす笑って泣ける大騒動を描いた、家族愛の物語です。主演は関口メンディーが舞台初主演に挑み、矢島舞美、鈴木杏樹、モト冬樹、宅間孝行らが脇を固め、笑いの先に潜む家族の絆を鋭く、温かく描きます。

「タクフェス」は、ただ舞台演劇を観て感動するだけでは終わらない、LIVE(生)の楽しさを追求し、劇場空間をプロデュースしたフェスティバル。開演前はランダムでキャストが登場するお客様も参加型の前説があり、本編終了後は全員のダンスタイムなど、劇場に一歩足を踏み入れた時から帰るまで、お客様にとって特別な一日をお届けいたします。ぜひ劇場で体感してください!

「タクフェス」は、ただ舞台演劇を観て感動するだけでは終わらない、LIVE(生)の楽しさを追求し、劇場空間をプロデュースしたフェスティバル。開演前はランダムでキャストが登場するお客様も参加型の前説があり、本編終了後は全員のダンスタイムなど、劇場に一歩足を踏み入れた時から帰るまで、お客様にとって特別な一日をお届けいたします。ぜひ劇場で体感してください!

■会場／アマノ芸術創造センター名古屋
■開演／11月20日(金)18:30 11月21日(土)12:00、17:00 11月22日(日)12:00
■料金(税込)／全席指定 SY9,800 TAKUFESシート ¥7,800
■チケット取扱い／下記①②③④⑤⑥
■Pコード／544-369 ■Lコード／42966
※未就学児入場不可
※TAKUFESシートは客席後方のご案内となります
※ダンスタイムは全公演実施 ※20日(金)18:30、21日(土)17:00はスペシャルカーテンコールと特別プレゼント抽選会を実施■会場／アマノ芸術創造センター名古屋
■開演／11月20日(金)18:30 11月21日(土)12:00、17:00 11月22日(日)12:00
■料金(税込)／全席指定 SY9,800 TAKUFESシート ¥7,800
■チケット取扱い／下記①②③④⑤⑥
■Pコード／544-369 ■Lコード／42966
※未就学児入場不可
※TAKUFESシートは客席後方のご案内となります
※ダンスタイムは全公演実施 ※20日(金)18:30、21日(土)17:00はスペシャルカーテンコールと特別プレゼント抽選会を実施■会場／アマノ芸術創造センター名古屋
■開演／11月20日(金)18:30 11月21日(土)12:00、17:00 11月22日(日)12:00
■料金(税込)／全席指定 SY9,800 TAKUFESシート ¥7,800
■チケット取扱い／下記①②③④⑤⑥
■Pコード／544-369 ■Lコード／42966
※未就学児入場不可
※TAKUFESシートは客席後方のご案内となります
※ダンスタイムは全公演実施 ※20日(金)18:30、21日(土)17:00はスペシャルカーテンコールと特別プレゼント抽選会を実施

11/7 SATURDAY・8 SUNDAY [Yerma イェルマ]

■会場／東海市芸術劇場 大ホール ■開演／各日13:00 ■料金(税込)／全席指定 ¥10,000 車いす席 ¥10,000 U-25チケット ¥5,000
■お問合せ／メーテレ事業 TEL.052-331-9966(平日10:00〜18:00) 〓詳しくは本ページ上記掲載の公演情報をご覧ください

つづきも読みにきれいなところが素敵です。そういう意味では圭祐くんの時よりも何か不思議なオーラがありますね……といったつづきはしゅもつ冗談を言って場を和ませてくれるタイプですが、そんな優しい二人に挟まれて自分の演技を見つめ直す日々です。

—— 渡辺いついさんが演じる「老妻」は、原作でも何度かエルマの前に登場して彼女に心を奪く言葉投げかける重要な役どころなのですか……

まさに本作の要です。「老妻」という役の可能性も、いついさんが演じられることで、原作よりさらに広がっていくのではないかと感じています。

—— そういえば愛知県のご出身ですもんね。15歳で東京に出ましたが、やはり年を重ねるごとに愛知「愛」が高まりますね。地元で演じることがあるようになったので、しっかり務めあげたいと思います!

—— イェルマ役の咲妃みゆさんは今度初めて、イェルマの夫フアン役の渡邊圭祐さんはTVドラマの「夫を殺したはずなのに」で共演したばかりです。

咲妃さんは舞台上で放つ求心力が圧倒的で、いつか一緒にしてみたいと思っていました。役柄への濃み深い集中度と同時に周囲への気



クラシック名古屋

TEL.052-678-5310

チケット購入・お問合せ

https://clanago.com/

チケット購入OK

11/1
SUNDAY

チケット発売中

○出演 / スギテツ[杉浦哲郎(ピアノ)、上野耕平(サクソフォン)、野々村彩乃(ソプラノ)] ○スペシャルゲスト / 中津川市民吹奏楽団、中津川中学生吹奏楽クラブ、中津川少年少女合唱団、JR東海音楽クラブ メンバー ○曲目 / 舞曲「いい日旅立ち」、JOURNEY TO THE JUPITER、ドヴォルジャーク「アメリカ」、ジュストラウス「観光列車」変奏曲「汽笛の軌跡」、会いにくい ほか



鉄道と音楽が出会う! 世代を超えて楽しめる、ワクワクのクラシック旅

鉄道とクラシック音楽が融合した、ひと味違うコンサートが中津川にやってくる! 「日本の鉄道のこれまでとこれから」をテーマに開催される「リニアクラシックコンサート2026」は、鉄道ファンはもちろん、クラシックに詳しくない人も思いきり楽しめる注目のステージだ。出演は、鉄道にまつわる楽曲をユモアたっぷりに演奏するスギテツ、サクソフォンの上野耕平、ソプラノの野々村彩乃という豪華な顔ぶれ。さらに、中津川市民吹奏楽団、中津川中学生吹奏楽クラブ、中津川少年少女合唱団、JR東海音楽クラブのメンバーもスペシャルゲストとして参加する。プロの音楽家と地域で音楽を愛する人々が一堂に会する、まさにこの土地ならではの特別なコンサートだ。プログラムも魅力たっぷり。ドヴォルジャーク「アメリカ」、ジュストラウス「観光列車」変奏曲「汽笛の軌跡」をはじめ、「JOURNEY TO THE JUPITER」「会いにくい」など、クラシックの名曲から鉄道を感じさせる楽曲まで多彩な作品が並ぶ。列車の走る音、駅を発出するときの高揚感、車窓から流れる風景…そんな「旅」の情景が音楽になって、目の前に広がっていくような楽しさ味わえる。スギテツならではの遊び心あふれる演奏に、上野耕平の華やかなサクソフォン、野々村彩乃の伸びやかな歌声が加われば、ステージはさらに盛り上がること間違いなし。そこへ地元の吹奏楽団や子どもたちのフレッシュな演奏が加わることで、世代を超えた音楽の交流も実現する。そして何より楽しみなのが、「日本の鉄道のこれまでとこれから」というテーマ。日本の鉄道が歩んできた歴史に思いを馳せながら、未来へ向かって走り続ける鉄道の姿を音楽で感じられるのも、この公演ならではの。子どもから大人まで、家族みんなで楽しめるのも嬉しいところ。聴いて、観て、驚いて、笑って、最後には心まで弾む。そんな新感覚のクラシック・エンターテインメントを、ぜひ中津川で体験してほしい。鉄道と音楽がつながり、特別な一日に出かけよう!

■会場 / 中津川文化会館ホール ■開演 / 14:00
■料金(税込) / 全席指定 グリーン席¥5,500 指定席¥4,000
■チケット取扱 / 下記①②③④⑤⑥
※5歳未満入場不可、5歳以上一人1枚チケットが必要

11/10
TUESDAY

チケット発売中

○出演 / 内田光子(ピアノ) ○曲目 / ハイドン「アンダンテと変奏曲 ヘ短調 Hob.XVII:6、シェーンベルク6つの小さなピアノ曲 作品19、モーツァルトロンドイ短調 K.511、ショーベルトピアノソナタ 第20番 変イ長調 K.959

世界が認める音楽家・内田光子。その至高のピアノズムを11年ぶりの名古屋で

世界最高峰のピアニスト、内田光子が名古屋に登場! 長年にわたってモーツァルトやショーベルトをはじめとする作品と深く向き合い、唯一無二の音楽世界を築いてきた内田光子。その演奏をじっくり堪能できる、またとない機会だ。今回披露するのは、ハイドン「アンダンテと変奏曲」、シェーンベルク「6つの小さなピアノ曲」、モーツァルトのロンド、そしてショーベルトのピアノソナタ 第20番。作曲家それぞれの個性が際立つ作品を通して、内田光子が生み出す繊細で奥深い音楽を味わうことができる。一音一音を丁寧に紡ぎながら、楽譜の奥に秘められた感情や物語まで浮かび上がらせる内田の演奏。聴き慣れた名曲も、彼女の手にかかれば、これまで知らなかった表情を見せてくれるはずだ。静寂の中に響く一音から、壮大な音楽の世界まで、ホールだからこそ感じられる音の魅力を存分に味わいたい。世界の聴衆を魅了し続ける巨匠のピアノズムを、生で体験できる貴重なチャンス。クラシックファンならずとも、一度は聴いておきたい特別なリサイタルだ。



■会場 / 愛知県芸術劇場コンサートホール ■開演 / 18:45
■料金(税込) / 全席指定 プラチナ¥22,000 SY18,000 AY16,000 BY14,000
■チケット取扱 / 下記①②③④⑤⑥⑦
※未就学児入場不可

10/15
THURSDAY

チケット発売中

○出演 / 尾高忠明(指揮)、小林愛実(ピアノ)、上野星矢(フルート)、名古屋フィルハーモニー交響楽団(管弦楽) ○曲目 / ベートーヴェン「ハレレ」[プロメテウスの創造物]作品43 序曲、モーツァルトピアノ協奏曲 第27番 変イ長調 K.595 ほか

尾高忠明×小林愛実×上野星矢! 実力派3人が織りなす極上の響き

指揮・尾高忠明、ピアノ・小林愛実、フルート・上野星矢という、第一線で活躍する3人が夢の共演! 名古屋フィルハーモニー交響楽団とともに、ベートーヴェン、モーツァルトの名曲を披露する。実力と個性を兼ね備えた音楽家たちが、一体どんな響きを生み出すのか。華やかで聴き応えたっぷりのステージは必聴! 3人の共演を、ぜひ会場で堪能してほしい。

■会場 / 愛知県芸術劇場コンサートホール ■開演 / 18:45
■料金(税込) / 全席指定 プラチナ¥7,000 SY5,000 AY4,000 BY3,000 ■チケット取扱 / 下記①②③④ ※未就学児入場不可

12/13
SUNDAY

チケット発売中

○出演 / 古澤巖(ヴァイオリン)、ベルリン・フィルハーモニック スtrings(弦楽五重奏) ○曲目 / ヴィヴァルディ「四季」より「冬」、ヴォーン・ウィリアムズ「クリスマス・タリスの主題による幻想曲」、ロベール・デ・マリニー「ヴァイオリン協奏曲 第1番」、フォーレ「組曲「ドリー」」ほか

古澤巖×ベルリン・フィルメンバーの極上の弦! 音楽で彩る、とっておきのクリスマスクリスマスシーズンを彩る人気公演が今年も開催! ヴァイオリニスト・古澤巖とベルリン・フィルハーモニック Stringスらが、ヴィヴァルディ「四季」より「冬」など、季節にぴったりの名曲を披露する。卓越した技術と豊かな表現力が生み出す、華やかで温かな弦の響きは必聴。大切な人と一緒に楽しむのももちろん、一年の締めくくりにもぴったり。極上の音楽に包まれる、特別なクリスマスを!

■会場 / しらかわホール ■開演 / 14:00 ■料金(税込) / 全席指定 ¥10,000
■チケット取扱 / 下記①②③④ ※未就学児入場不可



チケット取扱 ①クラシック名古屋 ☎052-678-5310 https://clanago.com/ ②チケットぴあ https://t.pia.jp ③ローソンチケット https://l-tike.com ④アイチケット ☎0570-00-5310 https://clanago.com/i-ticket ⑤イーラス https://eplus.jp ⑥芸文プレイガイド ☎052-972-0430 ⑦中津川文化会館 ☎0573-66-4011 ⑧プレイガイドきん ☎058-257-1625 ⑨栄プレテケ92 ☎052-953-0777

愛知県芸術劇場

TEL.052-211-7552

お問合せ

https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/event/

チケット購入OK

10/16
FRIDAY
10/17
SATURDAY

チケット発売中

○振付・音楽 / ホフェッショ・シェクター ○照明デザイン / トム・ヴィッサー ○衣裳デザイン / オスナット・ケルナー ○出演 / ホフェッショ・シェクター・カンパニー

悪夢か、それとも希望かー音と衝動が支配する、ここは夢の劇場 轟くビートとダンスのうねり! 熱狂と陶酔の果てには夢、それとも…英国を拠点に、舞踊、音楽、映像の領域を横断しながら世界の第一線を走り続ける振付家ホフェッショ・シェクター。その話題作『Theatre of Dreams (シアター・オブ・ドリームズ)』が日本初上陸。恐怖、欲望、希望といった人間の感情を、ダンサーの圧倒的な身体とバンドが奏でるシェクター自らによる音楽が、鮮烈かつスリリングに暴き出す。夢と現実の境界が溶け合い、観る者はいつしか、“夢の劇場”へと深く、深く引き込まれていく。★公演アンバサダーは上田竜也! コメント等はHPをご確認ください。

○劇場と子ども7万人プロジェクト対象公演

小・中・高校生を公演にご招待します(枚数限定・先着順) ※詳細はウェブサイトをご覧ください ※17日公演のみ

■会場 / 愛知県芸術劇場大ホール ■開演 / 10月16日(金)13:30 10月17日(土)15:00
■料金(税込) / 全席指定 (16日(金)) [一般] SS¥8,000 SY7,000 AY5,000 BY3,000 [U25] AY3,000 BY2,000 (17日(土)) [一般] SS¥9,000 SY8,000 AY6,000 BY4,000 [U25] SY4,000 AY3,000 BY2,000

■チケット取扱 / 下記①②③ ■Pコード / 542-407

※16日(金)公演は、1階席・2階席に学校団体の鑑賞が予定されています ※4歳以下入場不可(13歳以上推奨)
※託児サービスあり(有料・要予約) [対象:満1歳以上の未就学児] (17日公演のみ)
※U25は公演日に25歳以下対象(要証明書) ※車椅子席、視覚・聴覚に障がいのあるお客さまへのサポートあり
※やむを得ない事情により公演等に変更が生じる場合がございます
※本公演では、大音量を含んだ演出がございます。苦手な方には使い捨ての耳栓をご用意いたします

MANY
DAYS

9/18(金)~チケット発売

○出演 / 〈Challenge stage A〉鳥居ひろみき「即興する身体とディアログ」、野口桃江「心音ピアノ/ Revivity 236283」、武田摩耶/ 馬泰旭「Inbetween-ness」、〈Challenge stage B〉高橋偉大「左肩と右腕のため、もしくは全身のためかもしれないセット」、私道かひ「きそちた、あいち〜流域めぐる水のうた〜」、近藤基弥「人体インスクリプションB.O.D.Y.」、CI部「Cosmos Park Re-creation、(Advance stage) ルサンチカ! コードを待ちながら」知るたびに、世界が広がる。次世代を担うアーティストたちに、出逢おう! 新しい才能・人材の発掘と、愛知芸術文化センターでの公演により発信・育成を図る公募プログラム「AICHI NEXT: Performing Arts Project」。Challenge stageでは、7組のアーティストによるパフォーマンスを上演します。ジャンルを横断した実験的な作品、アーティストの視点による愛知の魅力発見など、ユニークかつ新規性のあるプログラムばかり。Advance stageでは、若手演出家の新たな視点によるサムエル・ベケット「コードを待ちながら」を上演します。アーティストたちの挑戦と新たな出逢いをお楽しみください。

開演日

[Challenge stage] ◎10/16(金)・17(土) ◎11/21(土)・22(日)

[Advance stage] ◎12/5(土)・6(日)

■会場 / 愛知県芸術劇場小ホール、2階フォーラム ■開演 / 詳しい情報はHPをご確認ください ■料金(税込) / 無料公演あり 全席自由¥1,000~¥3,000 ※サポーターチケット(アーティスト支援チケット)あり ■チケット取扱 / 下記①②

10/28
WEDNESDAY

チケット発売中

○オルガン / 藤山雅世 ○朗読 / 藤井咲有里 ○作曲 / 坂本日菜 ○ステージング / 中村善

絵本「終わらない夜(作:セーラ・リトムソン、絵:ロブ・ゴンサルヴェス、ほるぷ出版)」をもとに当劇場が創作したオルガンプログラム。絵本の幻想的な世界を、パイプオルガンと朗読でお楽しみください。また、コンサートの前半はよく知られた曲(J.S. バッハ「トッカータとフーガ ニ短調 BWV565 より」、G.ロッシニ「歌劇(ウィリアム・テル) 序曲より ほか」とともに、パイプオルガンについて簡単に紹介します。

○劇場と子ども7万人プロジェクト対象公演

小・中・高校生を公演にご招待します(枚数限定・先着順) ※詳細はウェブサイトをご覧ください。

■会場 / 愛知県芸術劇場コンサートホール ■開演 / 19:30
■料金(税込) / 全席指定 一般¥2,000 U25¥1,000
■チケット取扱 / 下記①②③
■Pコード / 326-997

※未就学児入場不可
※託児サービスあり(有料・要予約) [対象:満1歳以上の未就学児]
※U25は公演日に25歳以下対象(要証明書)
※車椅子席、視覚・聴覚に障がいのあるお客さまへのサポートあり
※やむを得ない事情により公演等に変更が生じる場合がございます



チケット取扱

①愛知芸術文化センタープレイガイド ☎052-972-0430 ②愛知県芸術劇場オンラインチケットサービス https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/event/ ③チケットぴあ https://t.pia.jp

世界の第一線を走り続ける振付家ホフェッショ・シェクターの話題作が日本初上陸!

ホフェッショ・シェクター・カンパニー

『Theatre of Dreams』

2026年10月16日(金) 13:30

17日(土) 15:00

愛知県芸術劇場 大ホール

全席指定
16H(金)SS席 8,000円 / S席 7,000円 ほか
17H(土)SS席 9,000円 / S席 8,000円 ほか

2019年に僕が出演した『ポリティカル・マザー ザ・コレオグラファーズ・カット』以来7年ぶりのホフェッショの世界。繊細に表現される「静」とエネルギーが「動」のコントラストが激しく濃厚で、緻密に計算された舞台美術や照明は、向こうで何が起こっているのか、こちらの想像力を掻き立てます。僕の大好きなホフェッショの音創りも健在。予備知識はなくても楽しめる作品です。

—— 公演アンバサダー・上田竜也

主催・企画・制作: 愛知県芸術劇場(公益財団法人愛知県文化振興事業団)
助成: 文化庁文化芸術振興費補助金
劇場・音楽堂等機能強化推進事業(地域の中枢劇場・音楽堂等活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会
後援: プリティッシュ・カンパニー

サンデーフォークプロモーション

TEL.052-320-9100

《お問合せ

https://www.sundayfolk.com/

《チケット購入OK

11/17
TUESDAY
11/18
WEDNESDAY

岐阜新聞創刊145年記念事業

秋麗 (SYUREI) ～歌舞伎舞踊と映画の出会い～

9/26(土)～チケット発売

○出演／谷口裕和、中村孝太郎、市川中車、市川團子、市川笑三郎 ほか

映画「国宝」で描かれた、歌舞伎の美と世界観。その魅力をより深く知ることができる「秋麗 (SYUREI)」～歌舞伎舞踊と映画の出会い～が、岐阜と高山で開催されます。注目は、映画「国宝」で振付・舞踊指導を務めた舞踊家・谷口裕和さん。飛騨高山出身で、名人・十世西川扇藏、梅津貴稔に師事し、東京・高山・京都を拠点に活動しています。映画では俳優たちに日本舞踊の稽古をつめました。今回は、谷口さん自身が映画でも印象的に登場した「簗娘」を披露。さらに、中村孝太郎さんと市川笑三郎さんが、映画「国宝」でも演じた「二人道成寺」を上演します。トークショーでは市川中車さん、市川團子さんを迎え、映画の舞踊シーンの舞台裏や、映画と生の歌舞伎舞踊の魅力について語ります。「国宝」を観た方なら、映画の世界から本物の舞台へ……。作品をより深く味わえる、絶好の機会です。

■会場／11月17日(火) まふしんフォーラム (岐阜市民会館)
11月18日(水) 高山市民文化会館 大ホール
■開演／14:00 ■料金(税込)／全席指定 ¥8,000
■チケット取扱い／下記①②③④
■PCコード／545-2041(7公演)
※未就学児入場不可

11/21
SATURDAY
11/22
SUNDAY

岐阜新聞創刊145年記念事業

秋季歌舞伎 特別公演 岐阜

チケット発売中

○演目／「平家女護島 俊寛」近松門左衛門作(石川耕士監修)、「蜘蛛の拍子舞 花山院空御所の場」長鳴稚子連中 ○出演／市川中車、中村孝太郎、市川團子、市川青虎、市川笑三郎、市川笑也、市川猿弥



市川中車、中村孝太郎、市川團子ら豪華俳優陣が岐阜・羽島に集結! 本格的な歌舞伎をじっくり堪能できる「秋季歌舞伎 特別公演」が開催されます。演目は、近松門左衛門の名作「平家女護島 俊寛」と、華やかな舞踊「蜘蛛の拍子舞 花山院空御所の場」。俊寛の孤独と悲劇を描く重厚な芝居から、妖艶な舞踊まで、歌舞伎ならではの多彩な魅力を一度に味わえます。市川中車をはじめ、市川團子、市川笑三郎、市川笑也、市川猿弥ら実力派が顔をそろえるのも見逃せません。伝統芸能の迫力と美しさを、ぜひ劇場でご堪能ください!

■会場／不二羽島文化センターサカール ■開演／13:30
■料金(税込)／一般 ¥12,000 二等席 ¥10,000 三等席 ¥8,000
■チケット取扱い／下記①②③④⑤⑥⑦
※未就学児入場不可 ※車いす席は③のみ取扱い

穂の国とよはし芸術劇場PLAT

TEL.0532-39-3090

《チケット購入・お問合せ

https://toyohashi-at.jp

《チケット購入OK

11/7
SATURDAY
11/8
SUNDAY高校生と創る演劇
『わたしの星』

9/19(土)～チケット発売

○作・佐々男 ○上演台本・演出 藤田恭輔 ○演出／オーディションで選んだ高校生

PLATが2014年より実施している「高校生と創る演劇」。今回は、柴幸男(まきご)の代表作「わたしの星」(2014年初演)を、現代の日常を掬い取る鋭敏の藤田恭輔(かろがめ団地)の上演台本・演出により、愛知県東三河地域を中心とした高校生とともに新たに上演。視覚に障がいのあるお客様のための舞台説明会(11月7日13:00の回)・ポスターブル字幕機の貸出(11月8日)など鑑賞サポートについては劇場HP。

○P21にて「柴幸男×藤田恭輔インタビュー」掲載
■会場先行チケット9/12(土)～発売
■会場／穂の国とよはし芸術劇場PLAT アートスペース
■開演／11月7日(土)13:00、18:00 11月8日(日)13:00、17:00
※全ての回終了後トークあり
■料金(税込)／日時指定・全席自由・整理番号付 一般 ¥3,000 ほか
■チケット取扱い／下記①②③ ■PCコード／545-366 ※未就学児入場不可

12/12
SATURDAY
12/13
SUNDAYマームとジブシー×
公共ホール4館共同制作
『under ground』

10/24(土)～チケット発売

○作・演出 藤田貴大

マームとジブシーと全国の公共ホール4館が共同して新作演劇を創り上げます。全演5箇所のリサーチと豊橋にて2週間の滞在制作を経て日本初演を迎えます。聴覚に障がいのあるお客様のための鑑賞サポートについては劇場HP。

■会場先行チケット9/12(土)～発売
■会場／穂の国とよはし芸術劇場PLAT アートスペース
■開演／11月7日(土)13:00、18:00 11月8日(日)13:00、17:00
※全ての回終了後トークあり
■料金(税込)／日時指定・全席自由・整理番号付 一般 ¥3,000 ほか
■チケット取扱い／下記①②③ ■PCコード／545-366 ※未就学児入場不可

9/22
TUESDAY
HOLIDAY
9/23
WEDNESDAY穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース
舞台手話通訳付き公演
『楽屋 流れ去るものはやがてなつかしき』

10/24(土)～チケット発売

○作・清水邦夫 ○演出／樋口ユウ ○音楽 安間要和 ○手話監修 河本メアリ ○出演 大満千佳、服部智子、森喜秀男

障がいの有無や年齢、性別、国籍などに関係なく、すべての人が劇場に集い、文化芸術に触れることができるための取り組みとして、清水邦夫の代表作を舞台手話通訳付きで上演。日本語字幕(全公演)・舞台上に「視覚」視覚に障がいのあるお客様のための舞台説明会(9月23日のみ)・FM補聴器の貸出など鑑賞サポートについては劇場HP。

■会場／穂の国とよはし芸術劇場PLAT アートスペース
■開演／9月22日(火・休)14:00、18:30 9月23日(水・休)14:00
■料金(税込)／全席指定 一般 ¥4,500 ほか
■チケット取扱い／下記①②③ ■PCコード／543-372
※未就学児入場不可 ※演出の都合上、開演後はご予約の案内にできない場合があります

10/3
SATURDAYリトアニア
現代オペラパフォーマン
『HAVE A GOOD DAY!』

チケット発売中

○コンセプト ヴァイヴァグライニシ、リナラベレテ、ルギーレ・パルズジャグテ



2019年ヴェネチア・ビエンナーレ金獅子賞を受賞した、リトアニアの女性アーティスト3名による現代オペラパフォーマン。10人のレジ係とスーパーマーケットの環境音、ピアノ演奏によって構成。きわめてミニマルでありながら、労働や消費の現場を鋭く描く本作。私たちの社会の在り方を問い直すとともに、人間の多面性を静かに浮かび上がらせます。視覚に障がいのあるお客様のための舞台説明会など鑑賞サポートについては劇場HP。

■会場／穂の国とよはし芸術劇場PLAT 主ホール ■開演／14:00
■料金(税込)／全席指定 一般 ¥6,000 ほか
■チケット取扱い／下記①②③ ■PCコード／324-924
※未就学児入場不可 ※演出の都合上、開演後はご予約の案内にできない場合があります

刈谷市総合文化センター

TEL.0566-21-7430

《お問合せ

https://www.kariya-bunka.jp/

《チケット購入OK

11/20
FRIDAYパフォーマンス Selection in 刈谷 vol.2
MANSAI FANTASY BOX
野村萬斎 &
オーケストラ・アンサンブル金沢

チケット発売中

○構成・演出・出演 野村萬斎 ○振付・演出 佐辺良和 ○出演 海老原光、釘宮淳月、守屋貴美子、野村裕基、玉城 匠 ほか



狂言師・野村萬斎が、クラシック音楽との新たな融合に挑む! オーケストラ・アンサンブル金沢との共演で届けけるのは、音楽と狂言、舞踊などが交差する、ジャンルを超えたステージ。伝統芸能の枠にとられず、さまざまな表現に挑戦してきた萬斎ならではの発想で、クラシックの名曲がどんな姿に生まれ変わるのかも注目です。音楽と身体表現が響き合う、ここしか味わえない舞台をお楽しみください!

■会場／刈谷市総合文化センター 大ホール
■開演／19:00 ■料金(税込)／全席指定 ¥97,000 A ¥5,000
■チケット取扱い／下記①②③ ■PCコード／333-171 ■Eコード／43112
※未就学児入場不可 ※車椅子席をご希望の方は2までお問合せください
※前売り券が完売している場合、当日券の販売あり
※花火サービスあり(有料・公演日の1週間前までに要申込)
※申し込みの変更、キャンセル不可 ※電話での申込不可

12/26
SATURDAYKARIYA CLASSIC
～室内楽への誘い
華麗なるヴィルトゥオーゾ
～ジャパン・テューバ・ソリスト

9/27(日)～チケット発売

○出演 ジェーン・テューバ・ソリスト(池田幸広、佐藤和彦、次田心平、古本大志) 中村真理(ピアノ)

オーケストラの低音を支えるテューバが、主役になった!? そんな驚きと楽しさ味わえるのが「ジャパン・テューバ・ソリスト」。国内外で活躍するテューバ奏者たちが集結し、迫力あるサウンドはもとろん、テューバならではの豊かな表現力でたっぷりりと聴かせます。重厚な音色というイメージを軽やかに覆す、華麗なるヴィルトゥオーゾたちの妙技にも注目。知られざるテューバの魅力を発見する、特別な室内楽コンサートです!

■会場／刈谷市総合文化センター 小ホール
■開演／15:00 ■料金(税込)／全席指定 ¥2,500
■チケット取扱い／下記①②③ ■PCコード／333-171 ■Eコード／43112
※未就学児入場不可 ※車椅子席をご希望の方は2までお問合せください
※花火サービスあり(有料・公演日の1週間前までに要申込)
※申し込みの変更、キャンセル不可 ※電話での申込不可

11/24
SUNDAYプロフェッショナルTalk&コンサート
SINON
～The Path of a Singer～

10/3(土)～チケット発売

○出演 SINON(ヴォーカル)、長谷川久美子(ピアノ)

歌うこと、そして生きること。シンガー・SINONが自身の歩みを語り、歌とともに届けるスペシャルステージ。音楽活動が続ける中で出会った人や出来事、歌うことへの思いなど、これまでの「生き方」に迫るトークとコンサートを展開します。聴らぬ言葉とともに響く歌声、その両方からSINONというアーティストの魅力を感じられるはず。普段のコンサートとはひと味違う、トークと音楽が一体になった濃密な時間をお楽しみください!

■会場／刈谷市総合文化センター 小ホール
■開演／15:00 ■料金(税込)／全席指定 ¥3,000
■チケット取扱い／下記①②③ ■PCコード／333-115 ■Eコード／41766
※未就学児入場不可 ※車椅子席をご希望の方は2までお問合せください
※花火サービスあり(有料・公演日の1週間前までに要申込)
※申し込みの変更、キャンセル不可 ※電話での申込不可

MANY
DAYS市民のための音楽講座
～東京フィルハーモニー交響楽団
の皆さんをお迎えして～

チケット発売中

○出演 斎藤和志(フルート)、若林沙弥香(オースティン)、斎藤雄介(ホルン)、島崎さくら(クラリネット)、森純(ファゴット)



刈谷市と連携協定を結んだ東京フィルハーモニー交響楽団との企画で音楽講座を開催。3回の連続講座で「オーケストラの変遷」をテーマに木管楽器・弦楽器・金管楽器がそれぞれの回に出演。演奏とお話を交えての講座を行います。1回目は「管楽器が彩るオーケストラの変遷」～バロックからミュージカルまで～をテーマに、木管をフィーチャーしました。パヴァーからミュージカルまで、木管楽器ならではの音色の違いや魅力を楽しみながら、オーケストラの「変容」の歴史を体感していただく講座です。

〈開演日〉○11/1(日) (テーマ:木管楽器)
○11/30(土) (テーマ:弦楽器)
○12/28(日) (テーマ:金管楽器)

■会場／刈谷市総合文化センター 小ホール ■開演 各回15:00
■料金(税込)／全席指定 各回 ¥1,000 ■チケット取扱い／下記①
※未就学児入場不可 ※車椅子席をご希望の方は2までお問合せください
※花火サービスあり(有料・公演日の1週間前までに要申込)
※申し込みの変更、キャンセル不可 ※電話での申込不可

可児市文化創造センターala

TEL.0574-60-3050

《チケット購入・お問合せ

https://www.kpac.or.jp

《チケット購入OK

11/14
SATURDAY
11/15
SUNDAY

シリーズ恋文 vol.16

9/26(土)～チケット発売

○構成・演出 田村孝裕 ○出演 渡辺いっけい、羽田美智子、黒木由香(ピアノ)

心に響く「恋文」を
俳優の朗読と
ピアノの生演奏で紡ぐ、
珠玉のひとつ

珠玉の恋文を、ピアノの生演奏とともに男女二人の俳優が朗読します。16回目を迎える本シリーズでは、渡辺いっけい、羽田美智子という実力派俳優が出演。言葉に込められた真っ直ぐな想いが、現代を生きる私たちの心にそっと寄り添います。



■会場／可児市文化創造センター-ala 小劇場
■開演 各日14:00
■料金(税込)／全席指定 ¥4,000 25岁以下 ¥2,000
■チケット取扱い／下記①
※未就学児入場不可

12/12
SATURDAY
12/13
SUNDAY

文学座90周年記念公演『みつ豆』

10/10(土)～チケット発売

○作 秋之桜子 ○演出 高橋正徳 ○出演 石田圭祐、塩田朋子、山崎美貴、奥山美代子、太田しづか、川辺邦弘、上川路啓志 ほか



戦後80年の今こそ伝えたい“家族再生”の物語

戦後日本のごく普通の家庭に、戦争は静かに影を落としていた。突然現れた「死んだはずの妹」をきっかけに、家族が抱えてきた秘密と傷が露わになる。文学座90周年記念公演として戦争の記憶を現代へと手渡す、切実で温かな人間ドラマ。

■会場／可児市文化創造センター-ala 小劇場
■開演 12月12日(土)15:00 12月13日(日)14:00
■料金(税込)／全席指定 ¥5,000 25岁以下 ¥2,500
■チケット取扱い／下記①
※未就学児入場不可

三重県文化会館

TEL.059-233-1122

《チケット購入・お問合せ

https://www.center-mie.or.jp/bunka/

《チケット購入OK

10/10
SATURDAY

人形浄瑠璃 文楽 (字幕付き)

チケット発売中

○出演 豊竹若太夫(太夫)、竹本鏡太夫(太夫)、鶴澤清治(三味線・人間国宝)、桐竹勘十郎(人形・人間国宝) ほか
○演目 1「星の部」(摂州合邦辻) 合邦住家段の段、[五条橋] [夜の部] [桂川連理橋] 六角堂の段、帯屋の段、道行橋の桂川夜の部では初演から250年の名作「桂川連理橋」を上演します。笑いあり涙ありの世話物の代表的な演目です。帯屋の主人長右衛門は38歳、互いに親子のように思う14歳のお半とまさかの過ちを犯し、さらにお半は妊娠。義母達がこれを嘆き付け、帯屋の乗っ取りを企みます。義母、義姉の憎々しさ、丁稚とのコミカルなやりとりが見どころです。後半からはがらりと雰囲気が変わり、それぞれの人物のお互いを思いやる心情が胸に迫ります。

■会場／三重県文化会館 中ホール
■開演 15:00 ■料金(税込) 13:00 [夜の部]17:00
■料金(税込)／全席指定 [昼・夜] ¥3,500 A ¥2,500 [昼・夜連立券] ¥6,000 A ¥4,000
■チケット取扱い／下記①②③④⑤
■PCコード／545-891
■Eコード／42831
※未就学児入場不可 ※翌夜連立券は①②にて取扱い

11/3
TUESDAY
HOLIDAYミッコ・フランク指揮
ベルギー国立管弦楽団

チケット発売中

○出演 / ミッコ・フランク (指揮)、亀井聖矢(ピアノ)、ベルギー国立管弦楽団(管弦楽) ○曲目 / プラームス: ピアノ協奏曲 第2番 Op.83、チャイコフスキー:交響曲 第5番 Op.64
ビエール・モントウ、エーリッヒ・クライバー、アンドレ・クリュイタンスなど名だたる巨匠が音楽監督を務めたベルギーのオーケストラが20年ぶりに来日します。そんな歴史ある名門楽団を指揮するのはフィンランド出身で国際的に活躍するミッコ・フランク。さらにリストにエリザベート王妃国際コンクール入賞のピアニスト・亀井聖矢を迎え、豪華共演で渾身のプログラムをお届け。ぜひこの機会をお聞き逃しなく!



■会場／三重県文化会館 大ホール
■開演 15:00
■料金(税込)／全席指定 S ¥18,000 A ¥16,000 B ¥12,000 C ¥9,000
25歳以下各席10%割引
■チケット取扱い／下記①②③④⑤
■PCコード／326-797 ■Eコード／43367
※未就学児入場不可

チケット取扱い ①可児市文化創造センター-ala インフォメーション ☎0574-60-3050 https://www.kpac.or.jp/ ②三重県文化会館チケットカウンター ☎059-233-1122 https://www.center-mie.or.jp/bunka/ ③チケットぴあ https://t.pia.jp/ ④ローソンチケット https://l-tike.com/ ⑤イープラス https://eplus.jp/ ⑥カンフェティ https://www.confetti-web.com/ ⑦エムズネット https://p-ticket.jp/center-mie/

北欧・スウェーデンを代表する人気陶芸家リサ・ラーソン

その最期の日々を孫娘が見つめた、もっとも親密でやさしいドキュメンタリー
“かわいい”の奥に秘められた、リサの創作と人生の物語とは――リサ・ラーソンが
いた時間

祖母と孫、二人が一緒に過ごした

時間の中にある宝物は見ている私たちの心をもほっこりさせます。

――LiLiCo(映画コメンター)

仕事を愛する一人の女性の人生の時間軸を

こんなにもたっぴりと追ったドキュメンタリーに胸打たれました。

――佐藤友子(北欧・暮らしの道具店/店長)

上映劇場はこちら↓

9.18 fri



9/20(日) センチュリーシネマにて、エミリア・エクマン・ラーソン監督 & LiLiCoさん 登壇トークイベント開催決定!

SPECIAL INTERVIEW 02 小曽根真 Makoto Ozono

小曽根真、ニューヨークから届ける“現在”

昨年から再びニューヨークを拠点に活動するピアニスト・小曽根真。クラシックにも取り組んできた20余年を経て、いまだためて自身の原点でもあるジャズと向き合っている。限りの時間のなかで、自分は何を弾くのか？ ブルージーな音楽から即興まで、いまだからこそ届けたい音楽と、その思いを聞いた。

—— 昨年からまたニューヨークに戻られたそうですね。

おかげさまでコンサートが多くて、忙ししています。この20年でクラシックを弾くようになったことは、僕にとってチャレンジングなことでもありました。もう人生のカウントダウンが始まっているので(笑)、何歳まで弾けるかは分かりませんが、どうしても素直は感じます。だから、どこまで弾けるかは分かりませんが、世界に出て、もう一回自分の音楽と向き合いたい。特にこの20年間は自分なりのクラシックに磨きをかけることに傾倒してきたので、ニューヨークに戻って、最前線のジャズともう一回ちゃんと向き合いたいと思っています。

—— 今回の公演では、「ジャズピアニストとしての小曽根真」をあらためて堪能できそうですね。

この1年、ニューヨークに戻って現地のミュージシャンたちと音楽を作っている時間が増えて来ています。自分を感じているジャズの大切な部分を、表現できたいなと思っています。今回はクラシックの曲は基本的にはありません。今の僕にとって何より大切なのがスイングとブルースという原点に戻ってきたのでその時代の音楽を外せません。

—— 「The New York Spirit」という副題には、現在のニューヨークの音楽シーンも反映されているのでしょうか。

ニューヨークでは、あちこちに新しいジャズクラブがオープンしています。若いミュージシャンが実験的にさまざまなことをやっていて、常に新しいものが生まれている。と同時にラディショナルなストレートのジャズも健在。そういったエネルギーがニューヨークという街にはあります。彼らは常に新しいものを探して、実験的なことをやっています。その音楽的レベルは非常に高い。ジャズという言葉の伝達をしっかりと理解した上に自分たちの新しい音楽を創り上げる。そういったエネルギーがここにもアメリカのジャズスピリットを感じますよね。

—— プログラムのほうも決めていらっしゃいますか？

僕はピアノソロジャズをときどき、お客様が僕のパートナー。可能な限りお客さんと一緒に作りあげたいタイプです。事前に1まず1曲目は人気な曲を弾こうと思っています。その日の天気や時間、お客さんが感じていること……それを含めて、そこでコンサートは進みます。だから「今日のコンサートで最初に出す曲はどれがいいかな」という感覚を、そこ一行ってから決めたくなる。舞台上で決めるぐらい。曲じゃなくて即興から始めることもありませう。お客さんと一期一会の旅をする。それが僕のコンサートのスタイルです。

—— プルーエのようなジャズクラフトと、クラシックのホルでも知られかわホルでもは環境が大きく違うと思いますが、音の出し方なども変わってきますか？

おそくも意識に変えていると思います。ステージの上において、踏ん返ってくる音や囁くような音をすべて聴いて弾いているので、それも含めて自分の好きな音に創っています。もちろん環境は「客席にはどう届いている？」が創りがきつきます。でも確認しずつけれど、その意見を参考にしつつも自分の感性を信じて



©西村 誠

地いい音を弾いています。

—— 最後に、今回公演を楽しみにしているお客さんへメッセージをお願いします。

実はしらかわホルは、悪魔のゲーリー・パートンと一緒にデュオ公演をやったホルなので、久しぶりに演奏できることをとても楽しみにしています。本当に響きのいいホルです。でもコンサートはなんでもさばらいいホルがあるということを知っていたきたいし、みなさんと一緒にこの至福の時間を共有したいです。ぜひ、会場でお待ちしています。

©Interview&Text / 浅井 彰

10/22 THURSDAY [チケット発売中]
「小曽根真 Premium Solo ~The New York Spirit~」
■会場 / しらかわホール ■開演 / 19:00 (18:15開場)
■料金 (税込) / 全席指定 ¥10,000 (後席より7折)
■お問合せ / クラシック名古屋 TEL.052-678-67310

SPECIAL INTERVIEW 03 かつしかトリオ Katsushika Trio

カシオペアの元メンバー、櫻井哲夫、神保彰、向谷実による、かつしかトリオ。ライブツアーや海外公演など、精力的に活動する彼らの最新動向をお届けします。

—— かつしかトリオとして活動を始めて5年、手応えはいかがですか？

神保: 昨年の韓国公演では、20代や30代の若い人たちが地鳴りのような歓声を上げてくれて、J-フュージョンが新しい音楽として再評価されていると実感しました。
櫻井: サイ会場に来くれた人も、大半が学生や20代で本当に驚きました。日本でもライブに来る若い人が増えていますね。
向谷: あらゆる音楽の転換期に新しい音楽を作っている人間が、いまだにやっていると。おまけに我々手強い演奏家ですから、生演奏で境界まで演奏することを楽しんでいます。いいのかもしれません。

—— 70年代~80年代、日本のフュージョンが独自に発展した背景について教えてください。

神保: 欧米のフュージョンがジャズ風の影響を重視するのに対して、日本はポップスの影響を受けているような気がします。インプロヴィゼーションの部分がもっとある。やっぱり全員のアンサンブルを大事にすると、曲の構成も変わってくる。メロディラインがキツキツで、独断の進化を遂げたと思います。

櫻井: ツアーなんかもうそうだと思いますが、欧米がスーパープレイヤーの個人技で戦っているのに対して、日本はチームプレーで魅せるというのがフュージョンにもあるような気がします。そして、緻密なアレンジも日本のフュージョンらしいところですね。
向谷: アレンジで息をついているのは、曲を展開させていく中でドラマを作ること。それは1曲1曲、絶対に必要だと思うんですよね。新しいアルバムは特に、全10曲それぞれ個性的なものに仕上がりました。

—— 原点回帰をテーマにしたアルバム「SO-DAYONE」ですね。

神保: 前作のLAでのスタジオ録音から一転して、今回は3人だけのサウンドを見直してみようという。曲作りにもすごく時間をかけて、細かいところまで練っていか個別にレコーディングして、各パートを緻密に構築していきます。

櫻井: 前作のLAレコーディングは重要な気がします。エンジニアのチームが、僕たちの素顔がよく出るように、音を加工せずオリジナルをサウンドバッキングしてくれたんです。それを体感したことが、今回のアルバムの土台としてすごく良かったんじゃないかと。向谷: ストリングスの作品とそれまでの作品を1タイトルで収録しつて



緻密なアレンジとアンサンブルの妙。ドラムチックなJ-フュージョン。

周した私たちが、作曲やアレンジのときはいっしょに出てきちゃって、結局「そだよな」って感じになった(笑)。ライブ中のノリでJ-フュージョンにボサティプに行こう、そだよな」と言ったのを、そのまゝアルバムタイトルにして、名古屋だと「SO-DAGANE」になるの。
—— 特に思い出の強い曲があれば教えてください。

神保: 「Marmalade Island」ですね。初めクレジットを取り入れた曲で、ダンスシリーズの第2弾なんです。ライブでお客さんにも踊ってもらえるよう、振り付けも考えます。

向谷: 「Black Ice」かな。8ビート主体でロックっぽくつつ、フュージョンらしい疾走感を出した曲です。櫻井さんにベースの重低音を頑張ってもらって、神保さんも二日ばかりでドラムを録って……ライブが楽しみです。

櫻井: 僕は「Journey To Aurora」、J-フュージョンに新しい要素を入れたと思って、ロバート・グラスパーのようなアプローチの曲を作りました。

—— アルバムツアーもありますね。

神保: 個々の活動をこなしながらこそ、それぞれの成長が今の音に出ていきます。名古屋の熱いファンに会えるのが楽しみです。
櫻井: みんな大人になって、お互いの良さを引き出し合える人間的な余裕が出てきたと感じています。ライブでは、これまでの経験とバンドのエネルギーを届けたいですね。

向谷: リーダーを作らない集団指揮体制だけど、今が本当に居心地いいんです。名古屋のお客さんは演奏のツボをよくわかって反応してくれるので、11月のホール公演がすごく待ち遠しいです。

©Interview&Text / 稲葉 敦子

11/7 SATURDAY [チケット発売中]
「かつしかトリオ COBALT EXPRESS TOUR 2026 名古屋公演」
■会場 / 中日ホール ■開演 / 17:00
■料金 (税込) / 全席指定 一般¥9,000 ※別途ドリンク代¥600 (現金のみ)
■お問合せ / サンデープロダクション TEL.052-320-9100
◎最新アルバム「SO-DAYONE」10/14 (水) 発売



歌声と躍動が出会う。二人だから挑める「歌の祭典」

SPECIAL INTERVIEW 05 中澤卓也 Takaya Nakazawa × 平松賢人 Kento Hiramatsu

歌声で聴かせる中澤卓也と、歌とダンスで魅せる平松賢人。出会いから約3年を経て、今回初めて本格的に共演する二人が語るのは、互いへのリスペクトと、アコースティックだからこそ生まれる「歌の力」。二人にしか作れないステージへの期待が膨らむ。

—— お二人が初めて出会ったのは？

中澤: 2023年4月、東京のイベントで初めてご一緒しました。お互いのステージも見たのが最初ですね。

平松: その後、テレビの収録などでお会いするようになって。以前、中澤さんが名古屋でソロコンサートをした時には、僕も会場にお邪魔しました。

中澤: あれはびっくりしました(笑)。奥で休んでいたら「知り合いの方が来ます」と言われて、誰だろうと思ったら平松さんです。

平松: 卓ちゃんも名古屋でコンサートをするという情報をSNSで見ても、ちょっと時間も空いていたので。せっかく名古屋に来てもらったから地元のものを食べてもらうようにして、失敬とんの味噌カツを買って持ってきました。

—— お互いをどんな存在だと感じていますか？

中澤: 平松さんは、とにかくエネルギーがすごい。そこが僕と明確になるんです。でも、リハールが立ち位置や見え方を細かく考えている。実直で努力家です。歌いながらあれだけ踊れるのも本当にすごい。

平松: 僕がすると中澤さんは「ないものねだり」です。僕は歌って踊ることになっている要素を組み合いますが、中澤さんは歌だけで会場を巻き込み、空気を作って、お客さんの感情を動かせる。それは僕にはないと思います。

中澤: 平松さんにもすごい「力」がありますね。ダンスは指先まで集中しているじゃないかと。引方なんです。それをやらないと、あれだけのテンションで全力で表現し続ける。本当にすごいです。

—— 今回のアコースティックライブの魅力は？

中澤: 楽器が少ない分、自分の声が出るので、ごまかしが利か

ないんです。ボーカルは自分の体が楽器。歌い手としてすごく集中するライブになります。演歌・歌謡曲ならではの日本語の美しさも、よく届けられると思います。

平松: 僕は普段、歌に加えて踊って楽しんでいただくことが多いので、今回はあえて踊らず、歌一本で挑戦する時間があったのもいいかな。何より中澤さんと一緒に一曲一曲作っていく。二人で歌を交わすことで、新しいものが生まれるんじゃないかと楽しみにしています。

—— 最後に、どんなステージになりそうですね？

平松: 僕が見て、歌を聴いて耳でも楽しめる時間になると思います。僕自身、中澤さんの歌声が本当に好きで、以前、客席の後ろに回ってこそ聴いたこともあるくらい(笑)。今回は僕自身もお客さんのような感覚を楽しみたいです。

中澤: 平松さんとご一緒するの久しぶりなので、僕も楽しみです。中澤: 勝負するんですよ。平松さんのエネルギーが僕にはパフォーマンスのコントラストも面白いと思う。二人だからこそ出せる空気感を楽しめながら、お客様と一緒に盛り上がりたいです。

©Interview&Text / 福村 明弘

10/10 SATURDAY [チケット発売中]
「中澤卓也 アコースティックライブ feat. 平松賢人」
■会場 / 名古屋市文化会館 大ホール ■開演 / 14:00
■料金 (税込) / 全席指定 ¥5,000
■お問合せ / 名古屋市文化会館 TEL.0595-82-7111

SPECIAL INTERVIEW 06 前橋汀子 Teiko Maehashi

前橋汀子が贈る、時代を超えた名曲のひとつ

日本を代表するヴァイオリニスト、前橋汀子がサラマンカホールでリサイタルを行います。長年にわたり第一線で演奏活動を続けてきた前橋さんが、今回のステージに込めた思いとは。9歳のときに出会ったプロコフィエとの縁や、昨年出合った新たな楽器についてうかがいました。

—— 多彩な作品が並び、大変魅力的なプログラムです。その中でも大きな聴きどころは、やはりパッパハとプロコフィエでしょうか？

そうですね。パッパハの(シャコンヌ)は、2019年にリリースしたアルバム「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとバルティータ全曲」に収録しているのですが、実はこのアルバムはサラマンカホールで録音したものです。サラマンカホールは大好きなホールのひとつでもあります。弦楽器との相性がいいホールです。以前からここでリサイタルを行う際には皆様にもパッパハをお届けしたいと思っていました。また、プロコフィエのヴァイオリンソナタは、これからリリースするアルバムのために改めて集中して取り組んだ作品で、ちょうど第1番と第2番を録音し終えたところなんです。そうしたこともあり、今回のプログラムにもぜひ入れたいと思います。

—— プロコフィエは20世紀を代表するロシアの作曲家のひとつです。前橋さんにとって特別な存在なのでしょうか、どのような魅力を感じていらっしゃいますか？

プロコフィエは当時のロシア帝国に生まれ、ロシア革命後はアメリカやフランスなどで活動し、のちにソビエト連邦へ帰国しました。ですから、どの時代に書かれたかによって作風が異なるのですが、彼の人生そのものが音楽に表れているように感じます。また、当時のソ連には、さまざまな民族や文化を持つ共和国がありました。それぞれの地域で、言葉も宗教も、食べ物生活習慣も違いますが、民族の舞踏もありました。そうしたものが、プロコフィエの作品のいろいろなところに散りばめられているように感じます。私は彼の音楽から感じるのです。そんな彼の作品に、私が初めて触れたのは9歳の時でした。日比谷公会堂で、のちに私の先生となるヨセフ・ツァンツの演奏を聴いたんです。ちょうどその日、プロコフィエが亡くなったという知らせが入り、シゲタは急遽、ヴァイオリン協奏曲第1番の第2楽章を演奏して僕をびっくりしました。そしてその8年後の17歳の時、サンクトペテルブルグ・ミングラドと呼ばれる時代に留学し、ボリショイ・ザールで行われたプロコフィエ没後10年の演奏会にも出演しました。振り返れば長い歳月をともに歩んできた。私にとってかけがえのない作曲家なのです。

—— 昨年は、新しい楽器との出会いがあったそうですね。

これまで弾いていたガルネリ・デュルジュスと大変な楽器でしたが、昨年、1686年製のストラディヴァリと出会いまして、最初に音を出した瞬間、「これだ」という手応えを感じました。特に、力強い高音の響きに魅力を感じています。ただ、銘器といわれる楽器を弾くことは、すごく難しいですね。楽器との相性もありますし、弾く人によっても音色も変わります。今は、この楽器に合った運指やボウイングを探りながら、この楽器が持っている音をしっかりと引き出せるか模索しているところです。そういう時間も、私にとっては至福の時間です。

—— 最後に、リサイタルを心待ちにしている皆さんにメッセージをお願いします。



©岡本隆史

SPECIAL INTERVIEW 08 亀井聖矢 Masaya Kamei

亀井聖矢、ベルギー国立管と奏でるブラームス

ロン＝ティボー国際コンクール優勝、「世界一過酷」とも評されるエリザベト王妃国際コンクール第5位。世界で躍進を続ける亀井聖矢が、ミッソ・フランク率いるベルギー国立管弦楽団との初共演で、ブラームスの第2番を挑む。

—— 2022年にロン＝ティボー国際コンクールで優勝。その後も更なる高みを目指す。昨年は、過酷なコンクールとして知られるエリザベト王妃国際コンクールで第5位入賞を果たされました。

国際コンクールに挑戦し始めた頃から、ロン＝ティボー国際コンクールとエリザベト王妃国際管弦楽団での入賞は大きな目標でした。その目標を果たすことができ、大きな達成感があります。エリザベトのファイナルは、1週間わたってチャペルで外部との接触を制限された環境で課題作品と向き合い、最終日にコンチェルトを演奏するという特殊な形式で行われます。そうしたこともあって「過酷なコンクール」と言われるのだと思いますが、その分舞台に立ったときの開放感は格別でした。コンクールではプレッシャー・フルハーモニックと共演しましたが、10月にはベルギー代表するオーケストラのひとつであるベルギー国立管弦楽団の皆さんと日本で共演できることになり、今が本当に楽しみです。

—— ブラームスのピアノ協奏曲第2番を挑む経緯は？

ブラームスは以前から大好きな作曲家のひとつです。心に響く素晴らしいロンドを数多く残しています。その中でもこの作品は、親しみやすいメロディだけでなく、一度聴いただけでは捉えきれないような長大なフリーズや、静かで深い表情が魅力です。そして、ドイツ的な大地を踏みしめるような力強いリズムも印象的です。そうしたさまざまな要素が高い次元で組み合わせられる音楽が展開していく、本当に密度の高い作品だと思います。ピアノとしては、協奏曲の舞台でオーケストラの響きを「特等席」で味わうことができるという特権があります。さまざまな楽器の音色が混ざり合うことで生まれる感情のうねりを、最も近い場所から体験できるんです。そこに私のピアノが加わることで、さらに複雑で豊かな音楽が生まれていく。そうした魅力を秘めた作品ですので、お客様にもぜひ、オーケストラとピアノが織りなす壮大な音楽の世界を存分に味わっていただけたら嬉しいです。

—— 指揮者ミッソ・フランクさんとの初共演のことですか？

同じ作品でも、指揮者によって解釈は当然、どの声部に耳を傾けるのか、どのようなパッセージで音楽を構築していくのかが大きく変わります。それによって、私自身の作品に対する印象も変わります。私は自分はどう表現したいのかという新たな発見が生まれることもあります。特にブラームスの音楽は、それそのものの動きや色彩を放ちながら進んでいきますので、そのとどろきとつながりを感じていってほしいです。初共演だからこそ新鮮な発見も含めて、とても楽しみにしています。

—— 最後に、音楽を楽しみにしている皆さんにメッセージを。

ぜひ会場にも遊びいただき、ライブでしか味わえない音楽の時間を体験していただきたいです。その場で感じることもできない時間の流れや集中力、会場を満たす熱量の中で、この作品なら



©Ryuya Amoo

SPECIAL INTERVIEW 09 仲道郁代 Ikuyo Nakamichi



生きる願いを音にして。仲道郁代が挑む、究極の《皇帝》

10年にわたるリベールヴェンを探究してきた仲道郁代が、いま改めて《皇帝》と向き合う。壮麗さの奥にある「生きるため」の願いを、阪哲朗、セントラル愛知交響楽団とともに響かせます。

—— 2027年に向けた長期プロジェクト「The Road to 2027」もいよいよ終盤に差し掛かっています。今、ご自身の演奏や音楽との向き合い方について、以前と変わって感じることがありますか？
10年間にわたって20のプログラムを弾き続けてきたことで、音楽の中に見出す意味や、自分は何をどう弾きたいのかということが、より明確になって印象があります。特に春のシーズではベートーヴェンを核に据えていますので、ベートーヴェンの作品をどう捉えるかについて研究を重ねることができています。

—— 今回の演奏会であるベートーヴェンの《皇帝》は、仲道さんが長年演奏されてきた大切なレパートリーです。キャリアや経験を重ねた今、この作品のどんな魅力や新しい発見を感じていらっしゃいますか？

《皇帝》として親しめる協奏曲ですが、壮麗さや華やかさだけではなく感じています。その奥にある、ベートーヴェンが当時置かれていた状況などを知ることにより、解釈はすいぶん変化してきています。生きた人間の願い、欲望が、生きる喜びを見出すという曲なのではないと思います。

—— 協奏曲は指揮者(阪哲朗さん)やオーケストラ(セントラル愛知交響楽団)との対峙によって作品が形づくられていきます。今回の演奏会で、お客様を含めた皆さんどのような音楽を共有したいと考えていらっしゃいますか？
セントラル愛知交響楽団の皆様は、初めてご一緒させていただき、どのようなサウンドと一緒に上げることができるのかと、楽しみにしています。

©Interview&Text / 福村 明弘

11/7 SATURDAY [チケット発売中]
セントラル愛知交響楽団 第21回定期演奏会 「究極のベートーヴェン」
■会場 / 愛知県芸術劇場 コンサートホール ■開演 / 14:30
■料金 (税込) / 全席指定 プラチナ¥8,000 SV6,000 AV5,000 BV4,000 CV3,000 U25各半額
■お問合せ / セントラル愛知交響楽団 TEL.052-581-3851

SPECIAL INTERVIEW 10 Yumeka Nakagawa 中川優芽花

21世紀ドイツ生まれの新星ピアニストを迎えて……



©Susanne Dinsner

東海エリアきっての演奏家集団「愛知室内オーケストラ」。第102回定期演奏会の目玉は若きショパンの手によるピアノ協奏曲 第1番。リストを19歳で名門クララ・ハスクリン国際ピアノコンクールを制した俊英が務める。

—— デュッセルドルフで生まれ育ち、現在はワイマルで研鑽を積まれていますね。どんな街ですか？

近代的なビルが並び並ぶデュッセルドルフと違い、ワイマルは古い街並みが保護され大切に残されているところで、詩人のゲーテやドラマー活躍した文化都市です。カラフルに塗られたゲーテの旧宅がかわいいです。ほかにもバウハウス博物館やバウハウス大学などもあります。

—— フランツ・リスト音楽院で学ばれているとか。今どんな勉強がお好きですか？

昔は論文を書くために資料を調べたりすることが苦手だったのですが、最近はいくつかの作品に対する多様な分析や人によって違う解釈の仕方などについて興味を持つようになり、曲の枠組みをどう決めるのかについての文章なども読むのが面白くなりました。

—— 音楽院で師事されている(※門下から多くのコンクール入賞者を輩出している)グロコリー・クルスマン教授の指導は厳しいですか？

はい、もの凄く(笑)。練習不足だとすぐに見抜かれるので、聴いていただく前にできる限りを準備してから臨むようになりました。中にはかなりきびしいコメントをもらって友だちもいて、みんなで励まし合っているんです。先生がお好きなのはパッパハやベートーヴェン、ラフマニノフなどですが、どんな作曲家の作品に関しても的確な助言をくださるのから尊敬しています。

—— 12月の公演ではショパンのピアノ協奏曲第1番を演奏されます。初め弾いたときにはなかなか難しい曲なんだろうと思いますが、あらかじめどんな感情が音楽に映し出されている様子を想像するよう感じられるのは楽しいです。特に第2楽章途中の「agitato(激しく、興奮して)」の部分で感情を一気に噴出させるところがいちばん好きです。

©Interview&Text / 東郷 智也

12/2 WEDNESDAY [チケット発売中]
「ACO 愛知室内オーケストラ 第102回定期演奏会」
■会場 / 愛知県芸術劇場 コンサートホール ■開演 / 18:45
■料金 (税込) / 全席指定 SV8,000 SV5,000 AV4,000 BV3,000 S (U25) ¥2,500 A (U25) ¥2,000 B (U25) ¥1,500 小中学生券(S~B) ¥500
■お問合せ / 愛知室内オーケストラ TEL.052-211-9895

SPECIAL INTERVIEW 04 杉浦哲郎 (スギテツ) Tetsuro Sugijura

リニア中央新幹線の沿線各地で継続的に開催される「リニアクラシックコンサート」。第2弾は、11月の中津川公演です。構成・演出を手掛けるスギテツの杉浦哲郎に、鉄道愛あふれるコンサートの魅力を聞きました。



—— 地域の吹奏楽団との共演は、このコンサートの特色のひとつですね。

リニア開業には地域の皆さんのご理解が欠かせません。音楽を通じて親しむを持ってもらう一助になればという思いからコラボを企画して、前回の名古屋公演では「JR東海音楽クラブ」が参加してくれました。今回は、地元「中津川市民吹奏楽団」「中津川吹奏楽クラブ」「中津川少年少女合唱団」が登場します。一緒に演奏を盛り上げるのももちろん、エンタメ要素を重視した演出もみんなで共演して、演る側も観る側も全員が楽しめるプログラムを考えています。

—— 楽団の皆さんも、鉄道と音楽のコラボに挑戦されるんですね。

「特急しなの」のチャイムとか、中央線沿線の中津川ならではの要素を取り入れています。前回は、新幹線の雷音とトロンボーンで再現したり、鉄道ローカルな楽器として現役車両もありました。「JR東海音楽クラブ」の力が持ってきてくれて、打楽器のアンプルを使う(鋭い音のバウ)が本物のレールで演奏したんです。新幹線と在来線はレールの太さが違うので、叩くと音程も違うんですよ。今回は音楽クラブのメンバーが参加してくださるので、聞き比べも楽しめようと思っています。

—— サクソフォンの上野耕平さん、ソプラノの野々村彩乃さんとの共演も楽しみです。上野さんも鉄道好きで、何度もご一緒されていますね。

昨年、「JR時刻表」の巻頭面でも鉄道と音楽をテーマに対談させていただきました。4ページの紙面ですが、1時間ずっと喋っていました。まためるライターの方が大変だったと思います(笑)。彼には、電気機関車の汽笛をコンプレックスを使わず自分から鳴らすという特技があって……管楽器奏者は肺活量が必要ですが、前回の公演でも、私物の汽笛を使って途中で披露してくれました。野々村さんはと

©Interview&Text / 稲葉 敦子

11/1 SUNDAY [チケット発売中]
「リニアクラシックコンサート2026 在 岐阜・中津川」
■会場 / 中津川市民文化会館ホール ■開演 / 14:00
■料金 (税込) / 全席指定 クリーン¥5,500 指定席¥4,000
■お問合せ / クラシック名古屋 TEL.052-678-67310

[主催] RENAISSANCE CLASSICS [後援] 朝日新聞社 RENAISSANCE CLASSICS

2026 10月31日 土

13:30開場
14:30開演

坂東玉三郎とフルオーケストラが、
愛と人生の名曲を綴り、
春風亭小朝が、
究極のエンターテインメントへと誘う。
この秋、唯一無二の
新たな舞台芸術が誕生。

【出演】坂東玉三郎、春風亭小朝
【指揮】柳澤寿男 【ピアノ】加畑嶺
【管弦楽】中部フィルハーモニー交響楽団

©岡本隆史

【第一章】春風亭小朝「ショパンの音楽と坂東玉三郎の舞台」
春風亭小朝による「音楽噺」。
ショパンの音楽と坂東玉三郎題材に芸術の本質について語る。
演奏曲：ショパン「ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11 第1楽章」

【第二章】坂東玉三郎 with Orchestra
演奏曲：「スターダスト」、「スマイル」、「愛遙かに」、「バラ色の人生」
「ラスト・ダンス」、「オーシャンゼリゼ」、「サムワン・トゥ・ウォッチ・オーバー・ミー」
「センド・イン・ザ・クラウンズ」、「愛の賛歌」、「水に流して」、「星に願いを」
※曲目は変更となる場合があります。ご了承ください。

【最終章】坂東玉三郎×春風亭小朝「芸術談義」

チケット（税込・全席指定・特製プログラム付）

プラチナ席 12,000円／SS席 10,000円／S席 8,000円

公演 オフィシャルサイト



チケットぴあ



イープラス



ローソンチケット



芸文プレイガイド 愛知芸術文化センター地下2階
TEL.052-972-0430
月曜定休（月曜が祝日の場合は翌日）
（平日10時～19時／土日祝10時～18時）

お問合せ

サンデーフォークプロモーション 052-320-9100 (12時～18時)